山の日
ひろしま「山の日」県民の集い

山と人との調和をモチーフに
デザイン開発。
基本カラーはエコグリーン。
デザインは木原実行さん。

第10回ひろしま「山の日」県民の集いの記録

日時 2011年6月4日(土)・5日(日)

場所 ○記念行事
広島市：中国新聞ホール
○集い行事
- 東広島市：憩いの森公園
- 廿日市市：もみのき森林公園
- 広 島 市：広島市森林公園
- 広 島 市：広島県緑化センター
- 三 原 市：中央森林公園
- 庄 原 市：板橋さとやま学びの森
- 福 山 市：ふくやまふれ愛ランド
- 三 次 市：清高の丘
- 呉　　市：グリーンヒル郷原
- 北広島町：芸北地区(6/19、8/5に実施)

主催 ひろしま「山の日」県民の集い実行委員会
中国新聞社
中国放送

LOVE GREEN
RCCラブ・グリーンプロジェクト
「緑の募金」助成事業
2011・国際森林年

第10回
ひろしま「山の日」県民の集いの記録

2011年6月4日(土)・5日(日)開催

ひろしま「山の日」県民の集い実行委員会／中国新聞社／中国放送

第10回ひろしま「山の日」県民の集い

「山の日」宣言

広島県の面積のおよそ7割は山です。
全国に誇る里山を有しています。

山から湧き出る水は命の源であり、その水が里の稲や野菜を育てています。
山を被う緑の木や草は、新鮮な空気をつくりだしています。
広島の豊かな山で生まれた水は豊かな川となり瀬戸内海や日本海へ注ぎ、
魚や貝を育んでいます。

私たちは、6月の第一日曜日を「山の日」とし
「山に親しむ、山を楽しむ、山に学ぶ」をテーマに、
ひろしま「山の日」県民の集いを、県内各地で開催し
山の大切さを訴えています。

ひろしまの里山から、
山の大切さを理解し行動する人の輪を拡げ、
山がよくなる運動にしていくことを
宣言します。

2011年6月4日

ひろしま「山の日」県民の集い実行委員会
実行委員長　伊藤利彦

目次
INDEX

1. 事業のアウトライン　1
2. 記念行事の記録　2
3. 各会場の記録　12
（1）東広島市会場：憩いの森公園 …… 12
（2）廿日市市会場：もみのき森林公園 …… 18
（3）広島市会場：広島市森林公園 …… 22
（4）広島市会場：広島県緑化センター …… 24
（5）三原市会場：中央森林公園 …… 28
（6）庄原市会場：板橋さとやま学びの森 …… 31
（7）福山市会場：ふくやまふれ愛ランド …… 33
（8）三次市会場：清高の丘 …… 35
（9）呉市会場：グリーンヒル郷原 …… 36
（10）北広島町会場：芸北地区 …… 39
4. 実行委員・協力者・団体等　40

事業のアウトライン

1.目的	2011年は、国際森林年である。ひろしま「山の日」県民の集いも10回目という節目の年を迎える。そこで、第10回の記念の集いとして講演会及びシンポジウムを行い、広く山の大切さを県民に呼びかけるとともに、今後も継続的な運動として取り組む必要があることを確認し、県民参加の森づくりのうねりを大きくするきっかけとする。
2.日時	6月4日（土）　記念講演会・シンポジウム 場所：中国新聞ホール（広島市中区土橋町） 6月5日（日）　広島県内9市町10会場で、県民参加により山の手入れ等を実施 ※北広島町会場は6/19、8/5に実施
3.主催	ひろしま「山の日」県民の集い実行委員会、中国新聞社、中国放送
4.特別協力	国際森林年国内委員会事務局　ひろしまの森林づくりフォーラム
5.後援	林野庁、広島県、広島県教育委員会、広島市、呉市、福山市、三原市、三次市、庄原市、東広島市、廿日市市、北広島町、（社）国土緑化推進機構、（社）広島県みどり推進機構、（社）広島県森林協会、広島県森林組合連合会、ひろしま緑づくりインフォメーションセンター、広島県山岳連盟、（社）日本山岳会広島支部、「山の日」制定協議会、NHK広島放送局、広島テレビ、広島ホームテレビ、テレビ新広島、広島エフエム放送
6.協賛	西条・山と水の環境機構、神沢精工（株）、広島県樹苗農業協同組合、（株）ウッドワン、（株）エディオン、（株）大塚商会、山陽乳業（株）、JAグループ広島、（株）タカキベーカリー、大和重工（株）、中国電力（株）、中国木材（株）、（株）中電工、広島駅弁当（株）、ひろしまNPOセンター、広島県協同組合連絡協議会、（株）広島銀行、広島県信用組合、広島信用金庫、山根木材（株）、西条ロータリークラブ、（株）にしき堂、広島ガス（株）、マツダ（株）、三吉屋食品（株）、（社）広島県造園建設業協会、広島商工会議所、（株）ホテルグランヴィア広島、（株）アド・キョウサイ、（株）イトー、（株）石崎本店、因島商工会議所、尾道商工会議所、尾道冷凍工業（株）、クニヒロ（株）、興国園芸（株）、幸陽船渠（株）、光和物産（株）、山陽建設（株）、山陽工業（株）、しまなみ信用金庫、特別養護老人ホーム誠心園、（株）ACORN徳の風プロジェクト、竹原商工会議所、田中電機工業（株）、中国電設工業（株）、東京農業大学校友会広島県支部、西日本旅客鉄道（株）広島支社三原地域鉄道部、（株）パブリックス、東広島商工会議所、ひろしまO.Rシステム（株）、広島市漁業協同組合、（株）広島バスセンター、広電建設（株）、福山商工会議所、（株）不二ビルサービス、みずえ緑地（株）、三原商工会議所、（社）三原観光協会、優心会心石形成外科、三原ロータリークラブ、三次商工会議所、森信建設（株）、ゆあーず「食」未来研究所、（株）有斐園、（株）ユアーズ、岩下憲悟

中国新聞ホール　●参加人数：約400人

いろいろな人やグループ、地域、ヒトやモノを結んで、ひろしま「山の日」県民の集いが始まって10年目になります。これまでの締めくくり、そしてこれからへ向って歩むために、6月4日（土）は記念講演・シンポジウムを中国新聞ホール（広島市中区土橋町）で行いました。

当日は、広島県内から県民の方をはじめ「山の日」の関係者など、約400人が参加。オープニングセレモニーでは、伊藤実行委員長の気持ちのこもった挨拶をはじめ、有岡県副知事からも祝辞をいただきました。また、「山の日」に贈ると題した宮脇　昭先生の情熱的な講演に感動された方も多かったようです。パネルディスカッションも山に思いを持つ4人のパネリストにより、これからのあり方について多いに語っていただきました。

アンケート調査等の結果からも、聴講された方々の満足度は、これまで経験したことがないくらい高いものであったことを記しておきます。

▲開会の挨拶をする伊藤利彦実行委員長

記録者：畝崎 辰登（ひろしま「山の日」県民の集い実行委員会 事務局）

記念講演

「山の日」に贈る

講演：宮脇 昭

（横浜国立大学名誉教授 財団法人地球環境戦略研究機関 国際生態学センター長）

宮脇 昭（みやわき・あきら）
1929年岡山県生まれ。広島文理科大学生物学科卒業、ドイツ国立博物館研究所研究員となる。横浜国立大学教授、国際生態学会会長等を経て、現在（財）地球環境戦略研究機関　国際生態学センター長、国立横浜大学名誉教授。世界各地で植樹を指導する現場主義の植物生態学者として、これまで国内外1700ヶ所以上で植樹指導をし、4千万本以上の樹を植えている。2000年勲二等瑞宝章、2006年にブループラネット賞。「植物と人間」「鎮守の森」「4千万本の木を植えた男が残す言葉」等著書多数。

記念講演・シンポジウム司会
山原 玲子（やまはら・れいこ）

続けることが大事。

ひろしま「山の日」の皆さんが、10年間も活動を続けて、そして、今日もこれだけ多くの方がいらっしゃって、たいへん感動申し上げます。日本人というのは、飽きっぽくて、1回や2回はやりますが大体3回目・4回目とだんだん実行力が下がってきて、最後は辞めてしまうんです。

命は40億年、続いているわけです。そして人類が出てから500万年。そのほとんどは、森の中で猛獣に慄きながら、木の実を拾ったり、若草を摘んだり、小川の小魚を、そして海の貝を拾って生きのびてきたわけです。今のように物とエネルギーとそして情報があり余っている時代というのはほんの瞬間的です。生物は、動かなくなったらすぐ退化して消えていきます。生きてるということ、そして動いてる・働いてる、命の証でございます。

そういう意味で、このひろしま「山の日」県民の集いの皆さんが、今までいろいろなことをやってくださっています。どれも大事です。

命を守るための森づくりとは何であるか。

しかし、今一番大事なのは、270万人余の広島県民の、そして1億2千万人の命を守ることです。これほど物とエネルギーがあり余っていながら、世界中の金と技術を集めても、70億人の或いは1億2千万の日本人の誰1人、千年はおろか、300年・200年・150年も生かすことができない。どんなに科学技術を発展させても、虫一匹、雑草1本、死んだものを生き返らすことができない。

川ではこれだけの水が来たら逃げなきゃいけない。津波は大丈夫、と言ってた。予想を超えた東日本震災・大津波によって、このかけがえない命が瞬間的に1万人以上の方が、命を失うということが、どういうことであるか。皆さん、どれほど科学技術を発展させても、今の科学技術・医学は、

命に対して、命をたてるトータルの環境に対して、いかにまだ不十分であるかということを知っていただきたい。一番大事なことは生きていることです。

今日は、少しは若い皆さんもいらっしゃっているが、長い人生にはいろいろなことがあるかもしれない。しかし、何があっても、生きているほど幸福なことはない。

緑化は緑に化かすと書きますが、化粧的な緑も大事ですが…。今、大事なのは、命を守る森です。山にも、里にも、都市にも、海岸にも森をつくる。そして山を愛する皆さん、山は、里に、街に、海に、繋がってるわけです。トータルシステムとしての中で今、私たちは、俺たちは山の木を植えている。或いは、林道を造っている、という風に部分的なことにこだわらないでください。

未来に残すものは紙切れの札束や株券ではない。

皆さんが未来に残すものは、巷間で騒がれている紙切れの札束や株券ではない。残すべきは、生命と心と文化と遺伝子しかない。土地に自生する土地本来の木による本物の森は、人間の心と文化を豊かにし、遺伝子を残す母体です。土地本来の、本物の木によるふるさとの森、その森があまりにも少なくなっている。

今、1億2千万人の92.8%が住んでるのは、冬も緑の常緑樹のシイ、カシ類の照葉樹林文化帯とも言われるところです。しかし、土地本来の木々による森は、鎮守の森などわずか0.06%しか残ってないんです。極端な表現が許されるならば、土地に合わない偽者であります。偽者とわかって使うことは必要であります。しかし、それを本物と思って植えたりしますから、例えば、あれだけ多くの被害を受けているわけです。

どうか皆さん、命は本物でございます。本物か偽者か、毒と毒でないものを見分ける、研ぎ澄まされた動物的な勘を蘇らし、人間は他の生物と何も違ってない、同じです。ただ、二本足で立つことができたから、両手を使うことが出来るようになった。生物学的には異常に発達したこの大脳皮質によって物を考えたり、感じることができるようになりました。人間しか持っていない知性・感性で、引き算をやめて

明日のために今すぐどこでも誰でもできること、これをこれだけの10年のノウハウを持ってやっていらっしゃる皆さんが、まず山に里に、そして街の中に海岸沿いにも命の森をつくっていただきたいと願います。

何が三役・五役になるか。命を守るために考えて植える。

仙台市の近くのイオンの森づくりの例です。8年前、敷地の周りに、中にいろいろな廃棄物という名前の廃材・廃木を入れて2メートルの高さのマウンドを築きまして、30センチのポット苗を植えました。今はこういう状態になってます。廃材などを焼かないで、捨てないで、次の氷河期が来る九千年もつ本物の命の森づくりを提案しています。

我々は、ほっこらと土を盛りまして、そこに土地本来の木である、タブノキ、スダジイ、カシではアラカシ・ウラジロガシ、いろいろな種類の根の充満したポット苗を混植、密植しました。好きなやつだけ集めない。生物社会は競争しながら少し我慢して共に生きるのが一番いい状態です。

何が主役であるか。今回の震災で津波はここまで来てるわけ。でも、タブの木は残っています。ここで火が止まっているわけです。本物とは長持ちするものでございます。

日本人は4,000年このかた新しい集落・街をつくったら必ずそこに鎮守の森をつくってきた。この中に神様がいるか仏様がいるか私にはよく分かりませんが、森こそ命を守る森でございます。特に海岸沿いに、この森があったならば…。

シイ・タブ・カシの森は、隙間があるから波を壊す。波を壊す破砕効果によってエネルギーが半分に減ります。もちろん間を通って入るかもしれない。が、その間に逃げるか対応できるわけです。そういう本物の命の森をつくることを、今、復興構想会議へも提案しています。

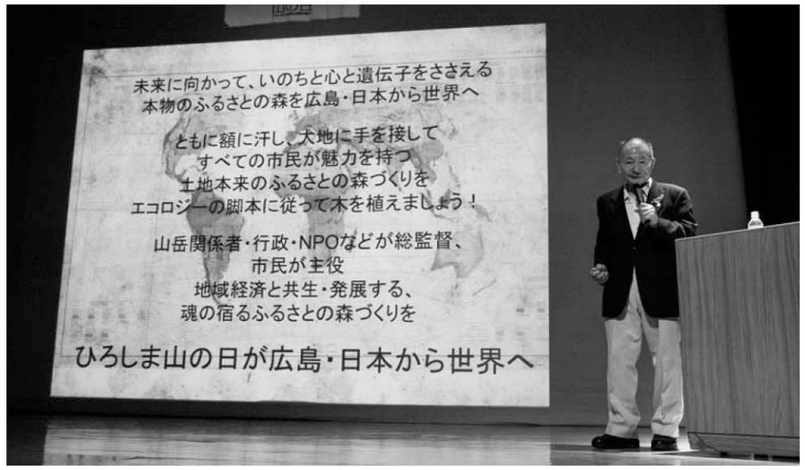
阪神・淡路大震災でも、クスノキやカシの樹林が"防火壁"となって延焼を食い止めています。常緑広葉樹は、スギやヒノキなどの針葉樹と違い、根が深くて倒れにくい上に水分を多量に含んでいます。

本物のふるさとの森づくりを、広島・日本から世界へ。

土地本来の木を植えるというノウハウを、ひろしま「山の日」県民の集いの皆さんの手により、未来に向かって命と心と遺伝子を支える本物のふるさとの森づくりを、広島・日本から世界へひろめていただきたいと願います。

皆さんが主役でございます。どうか、ただ話に終わらないで足元から植えていただきたい。3本植えれば森です。私は83歳です。将来の子供たちのためにあと30年、木を植え続けます。若い皆さん、50年・100年。あなたの為、あなたの愛する人の為、そして1億2千万人の日本人の遺伝子を守る為、70億人の世界の人々の未来を保証する為、日本から世界へ、本物のふるさとの森づくりがひろがることを期待しています。

宮脇先生は、パワーポイントの映像を活用され話をされました。ここではその要旨として実行委員会の責任で編集をさせていただきました。



記念シンポジウム

「山の日」のこれから

●パネリスト

堂本 暁子
（どうもと・あきこ）

前・千葉県知事、社団法人日本山岳会評議員、千葉県知事時代に千葉里山条例や里山の日の制定にも取り組む。

神﨑 忠男
（かんざき・ただお）

社団法人日本山岳協会会長、前・社団法人日本山岳会副会長、日本大学山岳部OB。現在、山岳関連5団体が協力して「山の日」制定のキャンペーン実施中。

鶴見 武道
（つるみ・たけみち）

四国のもりづくりネットワーク副代表、愛媛大学教授農学部コース長、えひめ千年の森をつくる会代表として、「えひめ山の日」や「四国山の日」の企画にかかわる。

伊藤 利彦
（いとう・としひこ）

第3回・第10回ひろしま「山の日」県民の集い実行委員長、愛する熱帯多雨林のために再生紙で名刺を作る会幹事、元・広島市収入役。

●コーディネーター

中越 信和
（なかごし・のぶかず）

広島大学大学院国際協力研究科教授・森林生態学。環境省里地・里山活用検討会議委員、日本生態学会中国四国地区会会長。

中越：　今日の宮脇先生の講演を聞いて、あれほど情熱を持ってお話になられる83歳の先生は初めてだと思いました。

さて、ひろしま「山の日」県民の集いが始まって10年目になります。十年一昔とよく言いますが、10年やってきたこと、できたことは幸福だったと思います。これをこのまま継続というわけにはいかないと思います。ひとつ次の段階に行かなければならない時だと思います。

今日、このシンポジウムを含めて皆さまにご提案したいのは、行政をどのように動かして次の段階に入るか、だと思っております。これが主旨の第1番目ですね。有岡副知事にもご臨席いただきました。先ほど、ひろしまの森づくり県民税についてお話されたました。森林の手当てがなかなか出来ない時に、皆さんからいただいているお金（ひろしまの森づくり県民税）で、それが少しでも出来るということだと思います。

2つ目の主旨、「山の日」を制定する為にはどうすればいいのかということをここで議論をしたいと思います。まずは伊藤さんから、ひろしま「山の日」県民の集いの10年間、特に10回目の意義をお話いただきたいと思います。

私たちと山との関わり

伊藤：　第10回を迎え、私も感無量です。私が関わりましたのは、第3回ひろしま「山の日」県民の集いを広島市で開催したことからです。私は、直接山との関わりを持っているわけではありません。この行事を行うためには相当の資金が要ります。その資金集めのために駆り立てられたというのが、実は私の役目の第一歩でありました。それが4回・5回・6回と続いていく中で、スポンサーの方々にも少しずつご理解をいただきました。今日の10回目の集いには、お手元のパンフレットに、60数社の協賛者のお名前がありますが、この方々のおかげでひろしま「山の日」県民の集いができております。広島県からもご支援をいただいております。

これから先、「山の日」をうまく運営し経営していくためには、企業のご支援をいただくというのも必要でしょうが、県民の多くの方々にそれぞれご支援をいただくような方式が取れないか、と思っております。そして、山というものをもう一度見直すためには、それぞれ県民の方からも一人一人少しでも

山というものに関わって欲しい。そのために、例えば会員制度等も設けてその会員になっていただく。森づくり県民税の今後の活用にもこの「山の日」運動の要素を加えていただき、広島県の立場と私どもの民間の立場とが一体となって、広島県での「山の日」運動が大きくなるようにしたいと思っているわけです。

今年は、広島県内の9市町10会場で「山の日」の行事を行います。残りの14市町の会場ではまだその雰囲気が出ておりません。広島県内には23市町がありますから、その方々と県とも一緒になって大きなうねりをつくっていく。そして、広島県においては「山の日」県条例をぜひ設けていただき6月の第1日曜日は、『山を考える、山の中に入ってみんなで山というものをもう一度見つめ直す、山を楽しむ』そんな取り組みになればと思います。

全国では、すでに25府県が行政の立場で「山の日」をつくっています。そことも一緒にスクラムを組んで、県民運動から全国的な国民運動に関わっていきたい。そして将来は、「山の日」を国民の祝日にしたいと思っています。山岳関連団体において、すでに「山の日」を国民の祝日にしようという運動が展開されております。それには、まず私ども地元の広島県民によって、ひろしま「山の日」をつくろうではないか、という運動に大いに力を入れたいと思います。

中越:　資金集めから、というお話でした。パンフレットには掲載されておりませんが、広島県に企業や団体を会員にしている「ひろしまの森林づくりフォーラム」という組織があります。今回、ここからも資金的な応援をいただいております。山を大切にする輪は、大きく広がっていると私自身は感じています。

それでは堂本さんに、山との関わりあいなどについて、お話いただきたいと思います。

堂本:　私が山登りを始めたのは、大学の山岳部に入ってからです。神崎さんなんかと、あの頃本当に夢中になって山登りをしていました。私はその頃ヒマラヤを目指したわけではなかったけど、もうとにかく山登りが大好き。大学の4年間何したかっていうと、山ばっかり登っていた記憶しかないんです。

もうひとついえる事は、私たちにとって山がもっと近かった。今ほど高速道路等もなくて、もっと歩いたんですね。昔のことばかり話していると言われるかもしれませんが、少なくとも自然に近かった。子どもの時には、山へ薪を採りに行ってたし、山菜を採りに行ったり、里山がまだ生きていました。それがついこの間の日本だったわけですね。でも今は、すっかりそれが様変わりをしてしまった。じゃあ、それが日本だけのことかっていうとそうではありません。

宮脇先生の話でも偽者の森とのお話ありましたけれども、本当にこの地球が46億年前に生まれて、そしておよそ40億年前に生命が誕生してから、自然に進化してきました。その自然が急激に変わったのは、おそらくこの産業革命以後かもしれません。が、もっと急激に変わったのは地球の温暖化が進んでからだろう、と私は思っています。

私たちにとって里、その上にある里山・奥山、そういった山々を私たちの本当の意味のふるさとをちょっともう1回思い返してみると、私たちはどこか故郷の山と遠くなってきています。私たちは山を見直して、そして山といろんな意味で仲良くなって、あらゆる意味で自分たちが山を登ったり楽しんだりするだけではなくて、私たち人間も、そうした植物や動物や昆虫やその内の一つの哺乳類、自然の調和の中にあって初めて生きていける。もし自然が全部崩壊した時には、私たち人類も破滅の淵に立たなければならない。その前に私たちは、もっと自分たちにとってかけがえのない山を大事にしていくということを今見直す。そんな時期に来ているんじゃないかなと思っています。

中越:　山の価値として、冒険の対象のようなものであったものから、広く森林生態系としての生物多様性を保持する、そういう入れ物であるということ。それから、私達の身近なものである里山とか、さらには畏敬の念で捉えられる奥山とを含めて、山が我々にとって大切な資産であると、文化的な資産であるいうことを語っていただきました。

それでは鶴見さんに、山との関わりについてお話いただきたいと思います。

鶴見:　私は農学部の林学に進学した人間です。時期は昭和42年です。昭和42年の頃って、森林とか林業に関する教科書がなかったのです。あったとしても、ほとんどが絶版になるような古い本でした。林学は営林署の役人か、たまに山持ちの子どもが少し入ってくるかなともいう感じで、社会的には、そんなに話題にもならなかったのです。ところが、昭和35年からの高度経済成長を遂げ、環境が悪くなっていく中で、森林に関する世論の高まりというのは、上がって行きます。しかし、林業経営者の経済はますます悪くなっていくという状態でした。

大学を卒業し、22年間、千葉県の君津農林高校林業科でお世話になりました。千葉県を離れてから平成6年に伊勢の地で「千年の森に集う」という国際シンポジウムを開きました。それまでも私は高校生と一緒にプロジェクト研究という中で森の活動をやっていたんですが、平成6年からは千年の森をつくるという名前で活動を始めました。

そして、平成12年に愛媛大学の方へ移り、今度は愛媛で「えひめ千年の森をつくる会」を立ち上げて活動を始めました。千年の森の定義は、伐ってはいけない林は伐らない。人工林は伐っては植え、伐っては植えという更新作業を続けて千年後も森であり続けるように努力をし、仲間と連帯をするということです。ですから千年伐らないない森ではなくて、人工林はちゃん伐って使っていくことです。

6つの柱がありまして、1番目は森づくり、2番目は世界に開かれた木炭学校です。3番目に自然農法の実践農場。4番目は安全な食の体験と農林産物の加工が学べる場。5番目はありのままの自分に出会う場。6番目は未来循環型生活の提案です。この6つの柱で「えひめ千年の森をつくる会」の活動を平成12年から続けて参りました。「えひめ千年の森をつくる会」では、第1土曜日、地元の西谷小学校の自然体験教室、森づくり、自然の有機農等による米作り・稲作り、食の安全を体験するという3つの活動をこの10年程続けています。

それから、平成13年に愛媛県では、えひめ森林ボランティア連絡協議会を設立しました。私は、そのボランティア連絡協議会の会長になりました。当初8団体1,500人位だったんですが、現在は20団体約3,000人のネットワーク組織になっています。えひめ森林ボランティア連絡協議会の会長として、私は今度は四国の森づくりネットワークの副代表として関わっていくことになります。

中越:　鶴見さんのお話を聞いて、柱の5番目の「ありのままの自分に出会う」という言葉は非常に大事かなと思いました。

それでは、神崎さんの方から登山者として、山との関わり合いとか山の良さをお話いただければと思います。

神崎:　過去5回ばかりエベレスト登山隊に参加しました。今、その時よりも緊張しています。我々登山者からすれば、より安全により楽しく山歩きをさせてもらえば、それでいいんです。あまり難しいことを考えると、余計遠離しちゃうものですから。

我々が山と関わるには、まず1つは、当然ながら自然保護です。その次は安全。やはり安全で楽しい山歩きをしたい。そして最後は健康。山で自分の健康管理というか、特にまた生命の尊さ、そういったものを山とつき合いながら自分が人間であるという証を立てる意味で「山の日」があっていいかな、と思っております。

それと、最近は山登りが変わってしまいました。8,000m14座が全部登られて、今や登山界が低迷しています。そういう中で、やはり登山をこれからも盛り上げていきたい。これが我々が「山の日」をつくりたいひとつの大きな目的になっています。

最近日本山岳会を中心に、日本山岳協会、勤労者山岳連盟、日本ガイド協会、ヒマラヤアドベンチャートラストの登山団体が、「山の日」に非常に力を入れ出しました。我々山男自身が「山の日」でどうするの？　と言われても、はっきりした明確な答えが出せないのが現状です。まず啓発をして、考えが一つの方向にいって、盛り上がったところで「山の日」にしたいと。ちょっと気の長い話ですが…。

「山の日」と「みどりの日」は、どう区分

中越:　4人のパネリストの方に一通りお話いただきました。共通のテーマでちょっとお聞きしたいなと、質問を用意しました。5月4日が「みどりの日」になってますね。さて、「山の日」と「みどりの日」の区別をどのようにされていますか。

伊藤:　私も聞かれたことがありましてね。「山の日」をつくろうと頑張っていたら、「「みどりの日」があるじゃないか。あれでええじゃないか」という意見がわりとあるんです。広島県では、例えば街中に住んでいる方はみどり・みどりとおっしゃり、求めておられる。ところが、広島の県北の方に行きますと、「みどり」は嫌だ。というような人もおられるます。イノシシは出るわ、とにかく大変なんだと。そういう意味でいくとですね、やっぱり「みどり」というのは、都市の住民にとっての願望の一つかなという感じを持ちます。

中越:　堂本さん、いかがでしょうか。

堂本:　「海の日」があるので、片方に「山の日」。ブルーの日、海の青さ、青の日がないのはちょっと物足りないかもしれませんが、海と山で、「山」です。

中越:　わかりました。鶴見さんいかがでしょうか。

鶴見:　戦後、日本の山は本当に荒れていて、洪水等が起こっていて、それに対する緑化活動等ということで全国植樹祭とか育樹祭とかを含めて、「みどり」の活動が進められてきております。多分に、その場合の「みどり」というのは、生物学的といいますか…。「山の日」の方は、例えば愛媛山の日の制定宣言は、森と共生する新しい文化の創造を図るということになっており、山との付き合い方というのは、森林環境教育があったり、いい木材の生産があったり、いい国土保全があったりという形で広いんだ、と思います。

中越:　神崎さん、どうぞ。

神崎:　われわれ山男にとって、「山の日」と「みどりの日」は大分違うと思います。いいことをやろうということについては、どっちかっていうと「みどりの日」がいいかもしれませんが…。

「山に日」の制定に向けて、課題や夢やできる事。

中越:　「山の日」を制定するということを考えた場合に、どういう問題が解決されないといけないかをそれぞれのパネリストの方にお聞きします。

堂本:　神崎さんの答えに一番端的に出てたと思います。山は登山の対象としての山が大きいと思うんですね。私も、山女だし、そういう立場から言うと、山には登れるけれども、緑には登れないし、というようなことで、やはり「海の日」は必ずしも泳ぐ人とかそういう人だけのための「海の日」のようには思いません。だけど「山の日」は、登山という1つのスポーツ或いは文化の領域が大きいのが1つです。

日本列島っていうのは本当に山岳列島なんですね。海に囲まれた島国であると同時に、山のない県はない。私は山登りしてた人だけど、千葉の知事になってみたら、一番高い山は標高400mしかなくて、高い山のない県の知事なりましたけども、高い山のない千葉県でさえ、美しい里山はたくさんあります。で、そこに動物たちもまた確かにイノシシやサルは邪魔をしてくれますけども、本来はどうやってその野生の生き物たちと人間が共生してゆくかということも含めて、私たちは山と海に恵まれた日本列島の中で「山の日」っていうのを持つことが大事だと思います。

中越:　ありがとうございました。今度は神崎さんにお聞きします。

神崎:　今、堂本先生から「登山」という言葉が出ました。実は今、登山が非常に低迷しております。しかし我々の経験として、登山から育んだ生きる力というか、これはものすごいものがあると、そう信じてます。登山がもっと生活の中に溶け込んでいくような日を、僕は「山の日」にしてもいいかなと思ってます。

中越:　山岳団体の方たちは、1年のどこを「山の日」にしたいと希望されていますか。

神崎:　「山の日」運動をやって1番多い質問はそこなんです。いつにしようと思っているんだと。いろいろな話を聞いて、まとまるところで決めようということで、今は、いつということは決めておりません。

中越:　それでは、鶴見さん、四国での事例等含めてよろしくお願いします。

鶴見:　「山の日」の捉え方ですが、国民参加の森づくりを農林水産省・林野庁が昭和61年以降出してきています。森林環境税を日本でいち早く取り入れたのが、平成15年の高知県、3番目が愛媛県です。高知県は森林率8割を超える。愛媛県も7割を超える。愛媛県の人工林率も62%です。徳島県も有名な林業地帯を持っているところです。

愛媛県では加戸守行前知事が平成13年を「森林蘇生元年」と位置付け、様々な活動を開始します。そして、平成16年の11月14日、四国森林管理局の局長と4県の知事が集まりまして、四国の森づくりに関する共同宣言しました。11月11日をもって「四国山の日」としております。愛媛県では、県が主導して四国・愛媛山の日を平成16年11月11日に設定し、高知も11月11日を山の日に設定したという経緯があります。その後、平成17年10月に四国の森づくりネットワークという形で、四国は一つ、四国の森は一つ、今旅立ち、という基に賛同団体（香川8、愛媛19、高知11、徳島14団体）が、四国の森づくりネットワークを立ち上げています。

平成16年に「四国山の日」を制定し、初めての記念行事を高知県で行いました。その次が徳島県、愛媛県、香川県。今年は、2順目の香川県です。四国の4県と四国森林管理局、それと四国の森づくりネットワークでが主催となってやっております。資金的にも最初の頃は四国森林管理局から出ていたと思います。後、各県がそれ相応のご負担をしてやってきたんですが、2順目まで来まして、かなり疲れてきたのです。それで3順目はどうしようかという時に、隣の広島県は、なんと2日間で1万人も参加するひろしま「山の日」を続け、ますます元気で、全国の山の日を制定を目指している、と聞きました。ぜひ、この民の力、私達は最初は官主導できましたけれども、そこでの様々な課題を今度は広島の方々と連帯をしながら進めていけたらなという思いで、本日やって参りました。

中越:　ありがとうございます。広島へ相当期待されてるようです。一つだけお聞かせください。どうして11月11日なんでしょう。11月11日は、木が立っているような感じからですか?

鶴見:　そのように聞いております。

中越:　間違いなかったですね。11月11日は、4本木が立っている。それでは、伊藤さん、個人としてでも結構ですから、「山の日」制定に向けて、ここをクリアしたらいけるんじゃないかといったところをお話しいただければと思います。

伊藤:　ひろしま「山の日」県民の集いが方向性として統一してるのは、とにかく広島に「山の日」をつくりたい。条例で持って「山の日」をつくりたい。何とか早くつくって欲しい、と考えています。今も神崎さんもおっしゃった登山をする人だけの「山の日」かというと、そうでもないんです。「山の日」をつくるためには、県民運動として取り組もうではないか、と言っております。そうなりますと、それぞれの団体や個人の方に、それぞれの目的があるんですね。

そういう意味で、「山の日」をつくろうという時に、山好きの人がとにかく集まって…山に登る人もあれば、山で昆虫を見る人、山で写真を撮る人、要は「山の日」をつくった時に参加してくれる人が、仮に今は1万人ぐらいですけども、それが将来10万人近くなってくるところで見ると、否が応でもこの「山の日」の団体というのは、大変な勢力団体等となるんですね。

そして「山の日」をみんなで1日をしっかりといろいろな角度から関わっていくというようなところが、広島県やひろしま「山の日」県民の集いが取り組む、「山の日」の最終的な姿かな、と感じております。

中越:　皆さんのお手元にアンケートが配られてます。1番最後のところに、報告書にまとめると書いてあります。私も迂闊に発言できなきませんが、今の伊藤さんの発言を聞きますと、これは政治的圧力を加えるパワーを持つことも必要だと、暗にそういうことを言っておられるのですか。

伊藤:　結果としてそうなるかもしれませんが、山好きの皆さん方が集まって山をいろいろな角度から楽しみ、考えよう。そういう意味では、環境にも資するだろうし、水の問題、或いは空気の問題から、或いは森林経営の問題まで及ぶであろうと思います。

中越:　4人のパネリストの方たち同士でいろいろ質問があるかと思うんですね。神崎さんから、どうぞ。

神崎:　登山者が「山の日」を制定しようと思っても、行政ははっきり言って認めないと思います。我々も行政に「山の日」を強引に認めてもらおうとは思ってません。今、登山界で「山の日」の制定に取り組んでいますが、日本山岳協会、日本山岳会、勤労者山岳連盟、それぞれ、多少考え方が違うんですね。登山者だけが「山の日」の制定を働きかけても行政からは認められないということは、良くわかっていると思います。

実は国際連合が2002年に国際山岳年というものを制定して1年間やった時に「山の日」が出来ました。これが12月の終わりの頃です。日本で、我々登山者も含めて、一般の人達にも山を楽しんでもらうというのは、12月っていうのは全く現実的でないんですね。ですから、日本ではこの国際山岳年で決まった、国際的な「山の日」は、ほとんど活用されておりません。

アジア山岳連盟も「山の日」があります。これは今日です。6月の第1土曜日を「山の日」とし自然保護の日に結びつけて「山の日」にしようじゃないかということが、10周年の韓国の総会の時に決まりました。

残念ながら、アジアの登山界は、日本・韓国・中国・台湾あたりが、アルペンクライムの歴史が長いんですけど、インドネシア・マレーシア・タイは、スポーツクライミングの山岳協会なんです。ですから「山の日」と決めても、一概に同じような目的で進めないっていうのが現状です。

ちなみに山梨県は、山梨県山岳連盟、日本山岳会山梨県支部が中心となって「山の日」を考えてます。これは先ほどの立ってる木のように、山々で8月8日って決めてるんですね。イメージで決めるのも一つの方法かなと思います。

中越:　8月8日は、漢字の八・八なんですね。山みたいにね。

神崎:　はい、そのようです。

中越:　鶴見さんどうぞ。

鶴見:　私は林業の方の話ばっかりをしておりますが、神崎さんの登山の話も大変興味もあります。

先ほど省いたんですが、愛媛県では平成16年の10月20日に、県民が期待する豊かな森林との共生を実現するためには、県民一人一人が森と触れ合い、森林に学び、森林を育てる意識を醸成していく必要があるということで、県民運動としてやっていくために、共生の森林づくりの会もつくっています。その入会募集の案内送付先団体数というのは2,380団体ありました。愛媛県は人口が150万人ですけれども、例えば愛媛森林管理署・市町村・農協・農業後継者団体・生活改善団体・森林組合・林業研究団体・教育委員会・小中高・養護学校・大学・緑の少年団・公民館・観光団体・商工会議所・企業福祉団体・スポーツレクリエーション団体・NPOボランティア団体という形で、2,380団体に呼びかけまして、結果、120団体が加入して動きが始まるはずでした。

ところがですね、これは、検証しなければいけないのですが、この共生の森林づくりの会員がその後展開しなかったのです。これを展開していたら、ひろしま「山の日」に近い形になって、その行政の責任とともに、県民一人一人が取り組める形にできたんじゃないかなと思います。

司会の
山原玲子さん

中越:　展開しなかったことで、思い当たることがありますか。

鶴見:　森林環境税を導入して、1団体50万までの計画だったら、ほとんど条件なく補助するという公募事業が始まりました。そちらにスライドしたのかなとも思えるのです。

中越:　競合してしまったんですね。堂本さん、どうぞ。

堂本:　伊藤さんのお話を聞いて、あぁすごくいいな、と思ったんですね。写真好きな人が山へ行って写真撮るとか、植物観察に行く人もいれば、登山・ハイキングの方も、いろいろな形で、千差万別でいい、山の好きな人がひろしま「山の日」が欲しいってことで、私はそういう形でできるのが一番自然じゃないかなと思いました。

広島がつくり、あとどこか日本の中に「山の日」を制定してる県があるとすればですね、47都道府県が次から次へと、日にちが違うとちょっと神崎さんも困っちゃかもしれないけど、どんどんつくっていくと、最後に国レベルで「山の日」っていうのもできてくる。そういったなんかトップダウンじゃなくて、地方からからつくり上げていく、その方が本物なんじゃないかな、という感想を持ちました。

中越:　ありがとうございます。伊藤さん、いかがですか。

伊藤:　いいお話をいただきました。私もね、多少疑念を持っていますのは、この「山の日」づくりを相談するポジションが農水省なんですよ。農林水産省、県も森林保全課なんです。森林公園などを管理していることころでは、あるところでは環境局がやっているところもあるんですね。この辺が、私どものように手広く広げている時に、果たして森林保全課にそこまで話を受けていただけるかっていうのは、ちょっと不安でございます。

鶴見:　今、日本には戦後植えた1,000万haの人工林、スギ・ヒノキを中心としたものがあります。人工林だけが荒れてるわけではないんですが、その森について、今、計画的にきちんと資金と人手を入れていく必要があると思ってます。あと、林業経営が破壊されている中で、日本人の林業経営者は、切ったら植えるということをやってましたけど、それもできない。そういう現実がありますね。で、その時に今いい森林を作っているのは、自伐林家なんです。その自伐林家へお金・予算が流れる仕組みがありません。

生物多様性の確保というのは、絶滅種・生物種のところへ行く前に多様なその仕事があって、多様な自然に対する働きかけがあって、実現するものなんですね。そこで、農山漁村の集落が維持されなくなった時に、都市部も崩壊するわけです。農山漁村というのは、本当に住んでいて素晴らしいところです。今の都市問題を解決する上では、農山漁村に入ってきていただくのが最高の近道だと思います。

中越:　どうもありがとうございます。何かいままでの発言の中で…神崎さん、どうぞ。

神崎:　難しい話になっちゃうとついていけないのが山男でごめんなさい。「山の日」の制定に近づくには、やはりもう少し行政との連携や政治力があっていいんじゃないかなと、思います。

中越:　これだけたくさんの方に集まっていただいて、シンポジウムを結ぶのに、やっぱり宣言のようなものがないと、しっくりきません。それから、私自身も来年のことを考えると、思いをまとめ宣言することが大事だと思います。ここで、ひろしま「山の日」宣言をさせていただきたいと思います。よろしいでしょうか。（拍手）

○「山の日」宣言
（宣言文については、最初のページに掲載しています。）

「山の日」宣言をする瀬川副委員長

中越:　どうもありがとうございました。たくさんの拍手をいただきまして、認めていただけたのかなと思っております。宣言にあるように、私達、引き続き頑張らせていただこうと思っております。パネラーの皆さん、ご来場の皆さん、本日はどうもありがとうございました。（拍手）

全体

●参加人数：約1,100人

<プログラム状況>

東広島市会場は、西条・山と水の環境機構10周年記念事業として第10回の「山の日」にふさわしい行事となるよう式典、記念講演会を午前に、午後からは山の手入れをはじめとした各プログラムが盛大に行われました。

式典には来賓として全体の実行委員長を務める伊藤実行委員長を始め、前日のシンポジウムに参加された先生方、地元からは西条・山と水の環境機構石井理事長や藏田東広島市長の代理として大北副市長、牟田前・広島大学学長にご臨席をいただき、西条農業高校吹奏楽部の伴奏のもと参加者全員で「故郷　広島の山」を合唱して式典を締めくくりました。

講演会では、西条農業高校の全校生徒（約750人）に加え、海外からの留学生も加わった広島大学生（約100人）、市民、企業関係者、山岳関係者、森林ボランティア、西条酒造協会関係者などあわせて1,100人。

特に若い世代を対象に、堂本暁子さんがオープンステージの中で、生物多様性についてわかりやすく語りかけられました。高校生らから質問もあり、意見のやり取りもでき、実にすばらしい講演会となりました。

午後からは、山の手入れや清掃登山で汗を流し、野鳥観察やネイチャーゲームで山に息づく命とふれ合いました。また、会場内ではバイオマスエネルギーに注目が集まる中、ペレットストーブやペレット製造機の実演・展示が行われ、多くの参加者が関心をもってご覧になっていました。

◀前垣壽男 東広島市会場実行委員長

記録者:船本 昌義（実行委員会 事務局）

この会場に、広島市から参加した武内泰治くんが感じたことを参加記としてまとめ、送ってくれました。

今日、山の日（龍王山憩いの森）に行きました。午前は、広場で講演会がありました。講師は堂本暁子先生でした。内容は、急速な気候変動（温暖化）は生態系をくずすので止めるべきだ。ということと、里山の利用は生物多様性を支える。ということでした。

講演会終了後、一時間ほど昼食休けいがありました。会場内のテントには、ペレットストーブの実演や、ペレットのお砂場。賀茂地方森林組合の「山の道具やさん」など、いろいろあり、楽しかったです。

午後から、ぼくは、山のグラウンドワークに参加しました。まず、班ごとに分かれました。ぼくは10班でした。この時、班長と副班長を決めたのですが、畝崎さんが班長で、ぼくは「副班長」になっていてびっくりしました!!ですが、嬉しかったです。現場につくと、まず、作業の説明があり、それから、作業にとりかかりました。林内は、はじめは低木がはびこり、歩くのも困難だったのですが、低木を刈り払い、枯れ木などを刈り除くと、向こう（10m先ぐらい）がよく見える程すっきりし、日光がほどほどに入り、立派な森になりました。伐採木は、大型のチッパーを林内に入れたので、それで効率的に、どんどん粉々にしていきました。チップは、トラックに乗せ、下までおろしていきました。きりのいい所まできたら、下山しました。

そして、しばらくして、閉会式になりました。そのなかで、今日の参加人数の発表もありました。なんと、千百人も来ていたそうです。内訳は、西条農業高校が半分以上、緑の少年団も5分の1以上、企業のグループ（シャープグリーンクラブ東広島、中国電力など）からもかなり来て下さっていたので、環境について理解をしてもらえる人がたくさんいたし、山の整備効果も倍倍になったと思います。

記念として、木の苗やペレット（少量）の無料プレゼントもありました。木の苗は、災害に強い常緑広葉樹であるスダジイとアラカシ、どんぐりのクヌギとコナラ、松枯れに強いスーパーアカマツの5種でした。ぼくは松枯れに強いスーパーマツを選びました。ペレットは、少量ですが、できたてホカホカの杉と赤松のペレットでした。温かいし、木の香りが良いので、できたら、これに埋もれたかったです。

帰り道、林を眺めていたら、スーパーマツの実験林があったので、立ち止まって観察しました。

1ヘクタールというすごい広さでやっているようなので、感心しました。

今日は、楽しくて、とても有意義な時間でした。

▲山のグラウンドワークに参加する武内くん

記・武内 泰治（ひろしま人と樹の会 小学校5年）

堂本暁子氏記念講演会

●参加人数：約1,100人

<プログラム状況>

講演タイトル「里山と生物多様性」

記念講演会は、西条・山と水の環境機構10周年記念行事として企画され、日本山岳会広島支部のご協力を得て堂本暁子さんをお招きできました。広島県立西条農業高校の全校あげての参加により会場を埋め尽くさんばかりの来場者がありましたが、堂本さんは若い世代の参加を大変喜ばれ、よそ風吹くオープンステージの中で実に素晴らしいお話をしてくださいました。質疑応答では予定時間をオーバーするくらい、熱心に高校生の質問に答えておられ、意見のやり取りもできました。高校生にとっても、大学生にとっても、そして市民にとっても、大変貴重なことを堂本さんから教わったように思います。最後に、会場から大きな拍手が沸いて講演は終わりました。

記録者:畝崎 辰登（東広島市会場実行委員会 事務局長）

10年前広島大学に編入学した年に、今回の実行委員長である前垣さんが大学の授業で西条・山と水の環境機構の話をされるのを聞きました。その数週間後、山のグラウンドワークに参加し、雨の中で山の手入れをしました。あれから10年経ち、自分が西条・山と水の環境機構10周年記念事業に関わらせて頂くことになるとは思いもよりませんでした。当日は私の愛読書の一つ「生物多様性」の著者でもいらっしゃる堂本暁子さんの活力源が「山が好き!」という私と同じ答えだったことが一番印象的でした。これからも、山が好き、自然が好き、お酒が好き、という人が増え、生物多様性が守られていってくれるといいと思います。

▲堂本先生に質問する小倉さん

記・小倉 亜紗美（東広島市会場実行委員会 委員）

参加者の感想

堂本さんの「里山と生物多様性」の講演を聞く事ができ、少なからず生物多様性に対する知識を深める事が出来ました。今度、機会があれば本を出版されていますので購入してみようと思います。（企業の森林ボランティアより参加）

▲堂本暁子先生

▲1,100人が聴講

▲高校生からの質問

▲堂本先生に感謝の大拍手

山のグラウンドワーク

●参加人数：300人

<プログラム状況>

山のグラウンドワークには、300人が参加。ここでも高校生や広島大学の学生（5講座の受講生）、7つの企業や団体関係者や市民が一緒に汗を流しました。

作業の内容は、樹木の幹の直径が概ね5センチ以下の低木や草を手ノコで刈る除伐作業と伐った樹木を粉砕機まで運搬するという2つのことを行いました。

除伐作業については、数回経験された方もいることから、チームワーク良くできていました。作業も思ったより早く出来ていました。

現場にチッパーシュレッダーがあるので、作業効率が良く、また主力の高校生が元気で作業が早いので、瞬く間に森が開け、日差しが入り込みました。

伐った樹木は、次の作業のことを考えるとある程度長さを揃え持ち運びしやすいように積み重ねておく必要があります。指導の不足もあり、そこは少し改善する必要があると感じました。

▲オリエンテーション

▲除伐作業

▲最年少参加者は7歳

記録者:船本 昌義
（実行委員会 事務局）

指導していただいた賀茂地方森林組合より

過去最大の参加人数で当初は戸惑いもありましたが、西条農業高校の生徒さん、先生方をはじめ参加者の皆さんの規律のとれた行動にはとても感心し、また積極的に手入れされたおかげで、見違えるほどきれいになりました。

参加者より

私は初めて参加させていただきましたが、作業を体験することによって、山やおいしい水を守ることの大変さ、大切さを感じることが出来ました。本当に素晴らしい活動ですね。

今後も、当社が地域の一員として、一人でも多くこの活動に参加していけるよう、担当者として精一杯努力させていただきます。（企業から団体で参加）

チッパーシュレッダーのオペレーターより

西条農業高校の生徒中心に、広島大学生、地元企業の有志で編成された11グループ約300人は、開会式、オリエンテーション終了後作業現場へ移動。予め区分けされた担当区域で、約30分間手ノコ等で不要木を伐採後、順次手分けしてチッパー機のある場所まで搬出しました。

粉砕は2台の大型チッパー機で実施。粉砕しながらトラックの荷台に放出する方式を採用。それにしても300人ものマンパワーから搬出される量に、さすが機械の処理スピードが追いつかず、粉塵によるスクリーンの目詰まりや送出の不具合が発生。オペレーターも大忙しの一日でした。

途中、見るに見かねて広島大学の佐藤先生にも急遽応援いただき急場をしのぎました。（先生ありがとうございました）万一事故でもあってはと、井野口病院の看護師さんにも、現場に待機していただきましたが、何事もなく予定の作業を無事終了いたしました。粉砕したチップは約3㎥、公園の一か所に集められ、堆肥にして利用されます。

今回の第51回山のグランドワークは、第10回ひろしま「山の日」県民の集いという記念すべき年と相まって、過去にない規模で盛大に行われました。確実に広がる活動の輪、年々充実する内容。参加させていただき充実感のある一日でした。

記録者:藤川 信也(フジ・エコテック)

▲2台のチッパーシュレッダーがフル回転

清掃登山

●参加人数：590人

<プログラム状況>

心配された雨も降らず、西条農業高校生490人・大塚商会35人・一般8人の533人と引率の57人、合計590人が参加した龍王山への清掃登山を、怪我もなく無事実施した。

昼食後に、多目的広場へ11班の班毎に集合し、簡単なセレモニー（挨拶・スタッフ紹介・計画概要説明）後、6つのコースに分かれて、ゴミを拾いながらの清掃登山を実施した。

今回はゴミが余り落ちていない為に、清掃と共に登山の楽しみと自然保護の大切さを体験する事も目的として、途中の休憩時に「登山の魅力と自然保護の必要性」をワンポイントレッスンしながら山頂を目指した。

龍王山山頂では、西条盆地や展望できる山の紹介をし、山頂にある三角点の解説などを、各班の講師が行なった。

下山途中の間伐材のトラックへの積み込みは、大塚商会と一般の方にお願いし、高校生は名水の碑でおいしい名水を飲み、多目的広場へ戻って閉会式に参加した。参加された高校生の中から、一人でも多く将来の岳人が誕生する事を期待している。

▲7学科の高校生が5コースに分かれて登る

▲龍王山山頂で記念撮影

記録者:野島 信隆（広島県山岳連盟 副会長兼普及部長）

森のネイチャーゲーム

●参加人数：午前20人、午後21人

<プログラム状況>

午前中は、緑の少年団に対して「わらしべ長者」を参考にしたゲームとカメラゲームを、午後は、家族を対象としてフィールドビンゴとカメラゲームを行いました。午前中の最初は、こだわりの落ち葉を途中で取り替えながら1枚もってきて、大きさや形、模様などを自慢しあいました。フィールドビンゴでは、いつにも増していろんな発見をしました。いろんな動物の糞やトンボがトンボをつかまえて食べるところ、高い木のてっぺんにある鳥の巣、池の中の卵など、「もう終了!」と何度も呼びかけなければならないほど盛り上がりました。カメラゲームは2人1組でカメラ役とカメラマン役を演じる活動ですが、ユニークな思い出深い「写真」ができました。

▲フィールドビンゴ

▲葉っぱを持ち寄り品評会

記録者:淺野 敏久（広島県ネイチャーゲーム協会）

参加者の感想（シャープグリーンクラブ東広島 社員より）

今回初めてネイチャーゲームに家族で参加させていただきました。憩いの森公園にはよく行っていますが、今回、ビンゴ形式で自然の中の色々なもの探すゲームを体験させていただいて、湿地の中に動物の足あとを発見したり、色々な自然の音に耳をすましてみたりして、いつもと違う視点で自然を感じたり、見つめ直すことができました。子供たちも楽しかったと喜んでいました。

森の野鳥観察会

●参加人数：80人

<プログラム状況>

オオルリに出会えた野鳥観察会

みずみずしい青葉、若葉の下、「山の日」野鳥観察会が5日、午前と午後の2回行われた。午前は「みどりの少年団」と指導者35人の総勢69人が小グループに分かれて出発した。山の中腹をめざし1キロ余の林道コースを散策、早速、シジュウカラ、ヒヨドリの声をキャッチ、カワラヒワの姿を観察した。さらにヤママユを見つけたり、白い花を付けたヤマボウシの実が鳥の餌になることやシオカラトンボノ雌雄の見分け方等を教わり、動植物への関心を深めた。

午後の観察会には、高齢のご夫婦も参加。メジロの声を聞きながら進むと、遠くの木のてっぺんに、オオルリがしきりに囀っている。スコープを覗き込んだ参加者や会員は「初めて見たわ」「ブルーの羽がとってもきれい」など感激の声をあげ、満足げだった。

・観察できた野鳥　ヒヨドリ、カワラヒワ、ハシブトガラス、オオルリ、ツバメ、スズメ

・声だけの野鳥　シジュウカラ、メジロ、コゲラ、ウグイス、ホオジロ、ハシボソガラス、キビタキ

▲スコープで野鳥を観察

▲お姿を見せたオオルリ

記録者:宮田 勲(東広島の野鳥と自然に親しむ会)

ペレットストーブの実演展示

●参加人数：多数

<プログラム状況>

○ペレットストーブの展示

今回は、第10回と言うことで、どうアピールしようかと考えた末、ペレットストーブ2台を車両に積んだまま展示し、ペレットを使った砂場も作りました。勿論きりん君や新しいポータブルキッチン"como"も披露しました。

ペレット砂場は、子供たちには大人気! また、燃料以外の使い方のアピールにもつながりました。

講演会の間はお客様も疎らでしたが、休憩時間は沢山の人だかりが出来、対応に追われ、ブレーナー屑を使った火消しも驚く着火材〔小粋〕も大好評で、僅かではありましたが購入いただきました。

司会の山原玲子さんの素晴らしいアナウンスで、多数のお客様がブースに立ち寄っていただきよい宣伝になったと思います。今回の震災を受け、電化住宅からバイオマス燃料への関心も増えてきている中で、里山整備とバイオマス燃料をどう結び付けて行くかがこれからの課題ではないかと思います。

▲ペレット砂場

▲ペレットグリル「きりん君」

記録者:山野井 重典
(ヤマノイ株式会社)

○広島大学木質ペレットプロジェクト

当初、参加予定ではありませんでしたが、東日本震災後、再生可能エネルギーに注目が集まっているということもあり、昨年に引き続き参加していただきました。広島大学の佐藤准教授率いるチームが愛媛からペレット製造機、尾道からペレットの原料となる乾燥させた木質チップを持ち寄り、実際にペレットができる様子から、ペレットグリルの燃料としてピザやソーセージを焼く様子を見ていただく事ができました。

記録者:船本 昌義(実行委員会 事務局)

山仕事の道具屋さん

●参加人数：約50人

<プログラム状況>

当日は、心配していた天候も問題なく、イベント日和となりました。

当組合では、「山のグラウンドワーク」の作業指導並びに、山の手入れ道具の販売を設けました。

特に、「山のグラウンドワーク」では、約300人の参加という過去最大の参加人数で当初は戸惑いもありましたが、西条農業高校の生徒さん、先生方をはじめ参加者の皆さんの規律のとれた行動にはとても感心し、また積極的に手入れされたおかげで、見違えるほどきれいになりました。

10回という節目を契機に、「山の日」が全国的に展開され、さらに若い世代の人達に山に関心をもってもらえるよう、貢献していきたいと思っています。

▲山の手入れ道具の展示販売

記録者:松浦 尚樹(賀茂地方森林組合)

気まぐれハーブカフェ

●参加人数：100人

<プログラム状況>

この度は、お天気にも恵まれ素晴らしい集いに参加させて頂いて、ありがとうございました。

今回はレモングラスのハーブティの提供をさせて頂きました。準備したのはハーブティ100人分、プレゼント用のレモングラス120パックです。とても素敵なアナウンスのお陰もあって、大盛況。あっという間になくなりました。関心を持って頂けたようで、うれしかったです。希望者全員に行き届かず、ごめんなさい。

都合で代表者一人での参加でしたが、周りの皆様が快く手伝って下さって、この事もありがとうございました。

記録者:高見 京(憩いの森ハーブ研究会)

▲筋肉痛をやわらげる効果があるというレモングラスのハーブティ

5種類の苗木のプレゼント

協賛団体の広島県樹苗農業協同組合様より頂いた苗木を閉会式の前と後に希望者に配布しました。

配布したのはどんぐりの実がなるスダジイ、シラカシ、コナラ、クヌギとアカマツの5種類で、たくさんありましたので、一人で3本持ち帰られた人もいらっしゃいました。残った苗は賀茂地方森林組合さんで引きつづき配布していただきます。

▲ボランティアスタッフ総出で配布しました

記録者:船本 昌義(実行委員会 事務局)

全体

●参加人数：約2,000人

<プログラム状況>

空模様は、今一つだったが、梅雨の合い間となった6月5日のもみのき森林公園で「第10回ひろしま「山の日」県民の集いinはつかいち」が参加者800人で開催された。

“森とのふれあい－やってみようボランティア活動”の合言葉で展開されたこの日のプログラムは、もみのき湿原の保全と森の手入れ、JRふれあいウォーク、森のネイチャーゲーム、作って飾ろう!草花あ・そ・び、ポニーに乗ってみよう、親子でピザを楽しむ会、魚のつかみどり、森のクラフト教室と盛りだくさん。

10時に開催された、開会式で実行委員長を務めたもみのき森林公園協会理事長の櫻井さんの挨拶の一節「森は人々に生きる希望を与えます」に、参加者のうなずき、安全祈願の「どんぐりころころ!」の全員発声で広がった若い女性たちの笑いを背に山仕事のいでたちで身を固めた森の整備グループは、もみのき湿原の林地に出発。

▲「山の日」フラッグ

▲開会式での「ドングリ・コロコロ」

開会式会場を取り巻くイベントブースでは、朝早くから準備してきたスタッフが商品や体験行事の材料を並べ、お客さんも顔を覗けて楽しんだ。

泊りがけの研修で来ていた団体の約40人も、開会式から参加し、ブースを回っていた。

山口県から来たという一家のお子さんでヒデノリ君と言う小学生は「ノコを使って木を切ったりするのは、今までも何回もある。インストラクターのおじさんから教えて貰って、うまく伐れたよ」とちょっと胸をはり、お母さんは「日頃から環境問題に関心を持っています。森を守ることの大切さを子供たちにも、学ばせたいと参加しました」と話していた。

ピザ作りのコーナーに参加した沖野かほちゃん（小3年）は「粉を力いっぱい練って楽しかった。家でもママのお手伝いをするよ」と話し、焼き立てのピザをほおばっていた木村ケイタ君（小5年）は「上の模様はパパと一緒に考えて作った。美味しく出来たので100点だった」とにっこり顔。

クラフト教室では、子供に教えながらパパも電動ドリルや電動サンダー、卓上切断機迄使う人もいて作品作りに大奮闘。はじめてポニーに乗った小4年の山根ハルカちゃんは「高いので少し怖かったけど、楽しかった」と興奮気味。

草花を使った飾り物づくりのコーナーでも、若い女性たちに人気があり、お客さんがひっきりなし。ネイチャーゲームやふれあいウォークでは、初夏の緑の中でさわやかな風を受けて自然を満喫しながら、観察や新しい発見に感動を味わっている様子だった。

もみのき湿原の周りの林地整備に加わった阿品の森サポータークラブの大久保会長は「下草やうっそうと茂っていた灌木を整理して、林が明るくなりました。湿原の観察にくるお客さんも入りやすくなりました。これからもこうした森のボランティアを、みんなで少しずつでも続けてゆきたい」と話していた。

山を愛し、山を守り育てようという気持ちで、森づくりから森に関わる様々な遊びや学びを通じて、一日を堪能した「山の日」廿日市市会場だった。

記録者:江川 和禧（広島県森林インストラクター連絡協議会）

もみのき湿原の保全とさくらの森を再生しよう

●参加人数：21人

<プログラム状況>

もみのき湿原は平成11年、GIC第1回交流事業で小室井山に通じる遊歩道整備の際、発見されたもので翌年12年から5ヵ年間に渡りGIC加盟団体の交流を図るための協働の活動場所として湿原保全活動が行われた。

この間の活動によって、湿地固有の動植物が観察されるようになった。

この湿原を自然体験や環境学習の場として有効活用するため、また、常時ぬかるんでいた歩道を歩きやすくするため、平成22年度には木道及び木橋を設置した。

毎年恒例となっている湿原の整備を阿品の森サポータークラブが中心で行った。それぞれヘルメットを着用し愛用のノコや山鎌を腰に携帯して湿原の現場（公園センターから北へ約2キロ）に向かった。現地では大久保阿品の森会長の作業内容や作業上の注意があったのち参加者21人は湿原内に生えている灌木類（ツゲ、アセビ）や枯木などノコやチェーンソーを使い伐採し枝払いを行い棚づみにして処理した。作業は10時30分から昼時間をはさんで午後2時まで、約2時間の作業であったがさわやかな汗をかいていた。うっそうと茂って機能不良の湿原はコケ類が顔を出し湿原としての環境を回復させた。

山口県から母親に連れられ参加した小学生の女の子は「ノコの使い方を教えてもらいうまく切れた、楽しかった。また来たい」と話していた。

▲枯れ木を切るぞ!

▲ノコはこうやって使う?木は切っても手は切るな!!
指導も完璧です?

▲この木を切ればいいかも?

◀除伐した木はチャント
片付けましょう

記録者:櫻井 充弘（財団法人もみのき森林公園協会）

新緑のもみのき森林公園（JRふれあいウォーク）

●参加人数：9人

<プログラム状況>

ウォーキングを楽しみながら、花の咲いている植物を中心に紹介した。芝広場一面に咲いているハルリンドウは、初めて目にする人がほとんどで、一面に咲き誇っている様子に「わぁーきれい」と感嘆の声があがった。芝広場からテニスコートへ抜ける林間の遊歩道は、何度も来園している人でさえ、大木が生い茂り、野鳥の鳴き声と、梢を渡る風の音ぐらいしか耳に入るものがないほどの静寂を味わうことができる森林があることに感激している。

季節により、いつもは気づくことの無い自然からのメッセージを受け取ることができることにも、発見があったようである。青森県から参加された方をはじめとして参加者は、熱心にメモを取り、質問も多くあり充実した1日であった。

▲ウォーキングを楽しむ参加者たち

◀これがハルリンドウ!

記録者:河原 隆治（財団法人もみのき森林公園協会）

森のネイチャーゲーム

●参加人数：22人

<プログラム状況>

さぁ頑張って活動しようと意気込んで会場入りを行いましたが、曇り空の下、気温も低下し、少し肌寒い状況の中、人の出入りも少なく今日はどうしたのだろうと少し不安になりましたが、ピザを焼いている時間どうしようかと、うろうろしている家族を対象にネイチャーゲームを楽しんでもらいました。

「こんちゅうさがしゲーム」、「しぜんのだいすき　だいじさがし」、「同じものを見つけよう」など行いました。

「こんちゅうさがしゲーム」では、どんな環境に住んでいるのかを考えてもらい、カードにある昆虫を見せ、昆虫を探すものです。なかなか今回の子どもたちは良く知っている子どもたちで、昆虫の名前まで正確に当てる子ども達もいて、こちらが関心させられました。

続いて「同じものを見つけよう」では、事前に樹木を選定しておいて、その周囲や、そこまで行く道筋に、落ちている草花や特徴ある小枝などを集め、バンダナで覆いをして、参加者には5秒程度見てもらい直ぐに隠して記憶のみで探す内容です。しばらくうろうろとしていましたが、さすがです子ども達は記憶力が良く、10分程度探していましたが、直ぐに見つけてしまい、これも感心したところでした。

最後に「しぜんのだいすき　だいじさがし」を行いました。この内容は、なぜ木や草が必要なのか、虫などの生きものが食べたり、鳥の巣をつくるのに木が必要だったりと、生態系のピラミッドを遊びの中で感じてもらうものです。

子ども達には穴の開いた葉っぱや大きな葉っぱを集めてもらいました。実際の状況を見ながら草や木を大事にすることが、地球に住む動物の役に立っているという内容の説明を行い終了しました。

別れ際には、木を削って鉛筆の形をつくりペンダントなど作ってお土産としてもって帰ってもらいました。

▲受付の様子

▲昆虫を探しているの?

記録者:秋山 浩三（広島県ネイチャーゲーム協会）

親子でピザを楽しむ会

●参加人数：21組84人

<プログラム状況>

「山の日」で定着したピザ作り体験プログラムでは、煉瓦で作った「ピザ釜」とダンボールとブロックで制作した簡易ピザ釜3基をフル稼働させ、参加者は初めて粉を練るというお子さんも家族協力して思い思いにキノコなどでトッピングして生地を仕上げた。後は順番待ちのピザ釜で焼き、自分たちで作ったピザを堪能した。

▲早くしろよ！形は大丈夫なのか?

▲簡易ピザ釜（材料ブロック、ダンボール、アルミホイル）

記録者:梅田 斉（財団法人もみのき森林公園協会）

魚のつかみ取り

●参加人数：57人

<プログラム状況>

公園内の川を利用した「流れの遊び場」で「魚のつかみ取り」を13時より開始した。参加者は、森の恵みであり、また、吉和育ちのアマゴを捕まえるために、この時期としては、例年より水温が低く感じる冷たい水の中へと小さい子供さんを先頭にジャブジャブと入る。参加していないギャラリーからは「早く捕まえにゃ!」「あそこにおるよ!」と威勢の良い掛け声。参加者は、皆童心にかえり夢中でアマゴを捕まえ、バーベキューの材料にしたり、晩御飯のおかずにと自分で捕まえたアマゴをそれぞれに家に持ち帰った様子であった。魚たちの住みやすい川を守るためにも森の手入れが必要であると感じた。

▲つかまえたぞー大きいだろう

▲緑に映える流れの遊び場

記録者:梅田 斉（財団法人もみのき森林公園協会）

森のクラフト教室

●参加人数：19組

<プログラム状況>

クラフト教室のコーナーでは、展示作品を見て参加申込する家族連れもあり、パパやママに聞きながらも独創的なアイデアを生み出して用意している部材を利用して、初めて使用するノコや小刀でユニークな作品に作り上げる子供たちが多く、目を輝かせて工作を楽しんでいた。

▲どれとどれを使えばできるのかな?

▲小刀とハサミで仕上げるぞ?

記録者:梅田 斉（財団法人もみのき森林公園協会）

ポニーに乗ってみよう

●参加人数：46人

<プログラム状況>

ポニーの名前は"チャンプ"です。今日は1日中働き通しで、子供たちに遊んだ。ときどきは芝生を食べたりして休んだけど?（森林公園の芝生は、とてもおいしかった?）

でも、家族の人は"チャンプ"と一緒に記念撮影をしたりして、「山の日」県民の集いの一日がとてもいい思い出になったと思う。

▲にっこり笑顔ではいポーズ

▲最初は怖いけど乗ってしまえば大丈夫

記録者:梅田 斉（財団法人もみのき森林公園協会）

作って飾ろう!草花あ・そ・び

●参加人数：17人

<プログラム状況>

作って飾ろう草花あそびは、和紙にくるんだオアシスや紙ひもで編んだ小さなかごに、色とりどりのドライフラワーを生けていく、というものと、直径15cmほどのリースに、ドライフラワーをボンドで貼っていくもの、計2種類を用意した。材料は公園内で採取したツルや花壇で育てたハーブなどであり、子供たちはミントやレモンバーベナなどの香りに驚いたり、かわいい花に喜んだりしながら、大人の方たちはドライフラワーの作り方やハーブの話をしながらの、和やかなコーナーになった。

参加者の方も、他の方の作った作品に感激したり触発されたりしながら、創造力を働かせ、熱心に作品を作られ、非常に面白い作品がたくさんできた。また、お子さんが作っているとお母さんがだんだん熱中してしまったり、お母さんが作った作品をお子さんが見に来て批評したり、と、ほほえましい光景も見られた。山の緑に囲まれて、のんびり草花と戯れるひとときとなった。

▲なにを作るの!できてからのお・た・の・し・み

▲公園で採取した草花を利用しています

記録者:上川 直子（財団法人もみのき森林公園協会）

▲手作りのイベント案内

▲ドングリくんも参加しています（緑の募金）

天候にも恵まれた第10回のひろしま「山の日」県民の集いは、"2011国際森林年"のロゴマークのとおり、森林、食物、魚、動物などを組み合わせたイベントの内容とした。国際森林年の国内テーマ「森を歩く」にふさわしい内容でイベントを盛り上げた。

協賛社:永本建設（株）、（株）クリンプロ、西部環境（有）、（株）ニューズアンドコミュニケーションズ、（株）広島毎日広告社

記録者:梅田 斉（財団法人もみのき森林公園協会）

全体

●参加人数：890人

<プログラム状況>

当日は、梅雨中にも拘わらず薄曇りで降雨の心配はほとんどなく9時30分に芝生広場において「もりメイト倶楽部Hiroshima」の鎌田要さんによる「山の日」宣言を行い1日の盛況と無事故を祈って開始。開催したイベントは、フォレストクラブ森守の協力を得て行なった「グリーンアドベンチャー」、広島県ネイチャーゲームの協力を得た「森のネイチャーゲーム」、もりメイト倶楽部Hiroshima運営の「森林公園内の山の手入れ」、「スタンプラリー」の4つで、各々のイベントとも当森林公園の特質を生かしたものとなりました。

また、この「山の日」に合わせて県道70号（広島中島線）登石バス停と森林公園経由緑化センター間の無料送迎バスを運行しました。そして、スタッフの尽力と参加者の協力を得て16時のイベント終了まで、広島市森林公園での1日を楽しく有意義に過ごしていただいたようです。

▲山の日宣言をする、鎌田要さん

記録者:桑田 荘一郎（広島市森林公園）

グリーンアドベンチャー

●参加人数：59人

<プログラム状況>

本コースは「管理ボランティア　フォレストクラブ森守」が中心となって2年前に整備されたもので森林公園内をクイズラリー方式でトレッキングできる常設コースになっていいます。

延長2,150m、標高差150mの林間コース内に18問

▲問題を解きながらコースを歩く参加者

を設置。コース内は雑木林、人工林、モミジ植栽林、渓流園路、つり橋など変化に富んでおり、当公園の人気定番イベントのひとつになっています。

なお、問題内容については不定期であるが更新しています。

当日は20組59人の参加があり、参加者には当公園で製作された記念品と成績優秀者には賞品をプレゼントし、好評でした。

記録者:隅田 誠（広島市森林公園）

森のネイチャーゲーム

●参加人数：32人

<プログラム状況>

梅雨空の天候であったが、家族連れや子ども中心の参加者でした。他のイベントと時間帯が重なり、予定より30分遅れでスタートしました。ネイチャーゲームを1時間、自然を使ったクラフトを30分として活動を行いました。活動の内容について、「ジグソーストーン」では、環境週間ということもあり、動物や植物以外に、石ころも自然物の一つであることを伝えると、形や色、手触りなどにも注目していきました。「カモフラージュ」では、自然に溶け込んだ人工物を探しました。子どもよりも大人のほうが真剣に取り組む姿が印象的でした。気付いたことの分かち合いでは、大型写真絵本を使い、色による擬態で生き物が身を守ることなどをふり返りました。自然をじっくり観察し、親しみを持つことができました。

▲○と△のジグソーストーン（むずかしそう?）

▲ジグソーストーンが完成しました（意外と簡単）

▲親子で真剣にカモフラージュに取り組んでいます

◀虫の擬態を写真絵本で説明（みんな興味津々）

記録者:表田 啓太郎（広島県ネイチャーゲーム協会）

スタンプラリー

●参加人数：63人

<プログラム状況>

芝生広場周辺でスタンプラリーを実施しました。コースは、芝生広場－メルヘンの森－第2駐車場付近－ジャブジャブ川の4つのスタンプポイントを設置して、園内を楽しく散策してもらいました。参加者には3ポイント以上でスタンプラリー賞として景品を配布しました。

午前中は曇り空で出足が悪かったにもかかわらず、19組63人の参加がありました。

▲ラリーを楽しむ参加者

記録者:土井 敏子

森林公園内の山の手入れ

●参加人数：9人

<プログラム状況>

10時まで受付後、ノコギリ・ナタ・ヘルメット装置。準備運動をして、作業場所へ移動しました。開始前に鹿による食害の木や残す木・気をつけるサルトリイバラ・ススキなどについて説明しました。遅れて参加された1組2人の方も合流していただきました。準備したエリアのうち3区画分を手入れしました。少人数のため、指導者の丁寧な説明などを通して、楽しそうな声とともに作業が進んでいました。始めは暗かったが、見通しが良くなり比較的楽に移動できるようになるとともに、風が通るようになりました。感想を聞くと、小学生2人をはじめ全員の方が、機会があれば「またやりたい」と発言されていました。

▲山の手入れへの参加者たち

◀作業内容の説明を行う

▲子供たちも参加

▲手ノコで、除伐をする

記録者:鎌田 要（もりメイト倶楽部Hiroshima）

広島市会場 広島県緑化センター

全体

●参加人数：約700人

<プログラム状況>

広島県緑化センター会場では、午前10時「可部南グリーンズ緑の少年団」による「山の日」宣言で開会しました。

レストハウス前広場を主会場に広島市森林公園と共催のクイズラリーやネイチャーゲーム、森の演奏会など5つの参加型プログラムを準備、多くの親子連れなどの参加があり、それぞれ楽しんでおられました。今回、初めて設けた「森のノルデックウオーク」体験コーナーでは「歩行姿勢も良くなり健康に有益」とのことで、皆さん熱心に練習されていいました。

また園内2ヵ所で「山の手入れ」や植樹を行ないました。そのひとつ「山根木材の森」の手入れには、山根木材㈱の役職員、家族など約130人が参加、作業舎前で開会式の後、現地へ移動し、熱心に山の手入れをされていました。「さくらの森」周辺では「可部南グリーンズ緑の少年団」や一般参加者など40人により除伐、下草刈りなどの山の手入れが行なわれました。

集いの広場では、地元福田町老年会による桜の苗木の植樹と「山の日」協賛グランドゴルフ大会が開催され、熱戦が繰り広げられました。当日は雨も心配された曇り空ではあったが、約700人の来園者で賑わいました。

▲開会式の様子

記録者:実行委員会 事務局

企業の森　森林整備

●参加人数：127人

<プログラム状況>

午前10時、作業舎前で「山根木材の森」手入れ活動開会宣言に続き、山根木材㈱山根社長の挨拶、県農林水産局富永局長の来賓祝辞の後、作業上の注意事項の説明を受け、現地へ移動しました。

参加者は、山根木材㈱の役職員及び家族など127人、10班に分かれ、各班1名の指導者がついて11時から山の手入れを開始、12時30分に終了しました。現地で昼食の後、閉会式を行い全日程を終えました。

「山根木材の森」の手入れは平成25年度末まで3年間継続の予定です。

▲企業の森　森林整備に参加した127人

記録者:行正 高成(広島県緑化センター)

森のノルディックウオーク

●参加人数：19人

<プログラム状況>

順　路:レストハウス前⇔園内

ノルディックウオーク協会荒川さんの指導で午前、午後各一回体験会を実施しました。歩行補助杖2本を使用しての歩き方、器具の持ち方の基本動作を練習した後、会場を起点に園内を巡り、自然と触れ合いながら帰ってくる約1時間の行程でした。

姿勢も良くなり、筋肉トレーニングにもなり健康にも良いということで、参加者は、張り切って練習をされていました。指導を頂いた荒川さんから「樹木解説ガイドが一緒にセットであれば、もっと良かった」とのコメントがありました。

▲ノルディックウォークの手ほどきを受ける

▲軽快に歩く参加者たち

記録者:行正 高成(広島県緑化センター)

国際森林年クイズラリー

●参加人数：24人

<プログラム状況>

広島市森林公園会場と共催のクイズラリーで、当会場では、センター池沿いに5ヵ所の質問ポイントを設けました。

景品がもらえるので、子供連れの家族に人気がありました。

記録者:行正 高成(広島県緑化センター)

紙ヒコーキ大会

●参加人数：55人

<プログラム状況>

芝生広場で行いました。

紙ヒコーキを自分で折って飛ばし、一定の距離飛んだ人には「アイスクリーム無料引換券」をプレゼントしました。小学生以下の親子連れに人気でした。

▲飛行機を上手に飛ばす子供たち

記録者:行正 高成(広島県緑化センター)

森の演奏会

●参加人数：多数

<プログラム状況>

森の演奏会は、11時から米川繁樹さんの手作り楽器創作演奏で幕を開けました。底に穴のあいたヤカンや蛇口付き水道パイプなど不用品を活用して作られた笛の演奏に大勢の聴衆は感心しきり、拍手喝でした。

昼食休憩を挟んで午後1時30分からはオペラ歌手山岸玲音さんに友情出演を頂き本格的なバリトンの歌声を堪能、最後に「味香友子とウエンデイ・ヒマワリ」による聴衆と一体となっての合唱の数々で賑やかに終了しました。

▲緑の中に歌声が響いた

記録者:行正 高成(広島県緑化センター)

第10回「山の日」記念植樹

●参加人数：40人

<プログラム状況>

「集いの広場」周辺に記念植樹を始めて、今年で3年目になります。今年は樹高2m程度の八重桜10本植えました。記念植樹には、当初からご参加の地元福田地区老年会連合会の児玉会長が、福寿会のメンバー40人と共に参加されました。

4人グループ、10班に別れて、事前に準備した植え穴に堆肥を入れ、少し土を入れて苗木を置き、掘り上げた土にバーク堆肥を混ぜて埋戻し、お椀型に仕上げました。次に鹿防除の幹ガードを設置し、植樹者の名札をさして植樹を終えました。

皆さん毎週2回グランドゴルフに来ておられ、「さくらの木が大きくなるのが楽しみ」とのことでした。

▲10回記念に10本の八重桜を植える

記録者:廣瀬 儘(広島県緑化センター)

緑の少年団森の手入れ間伐・除伐

●参加人数：25人

<プログラム状況>

毎年山の日には参加してくださる「可部南グリーンズ」の緑の少年団18人に団長と副団長及び父兄の方の参加で、森林インストラクターの講師2人の指導のもと、除伐・間伐を行いました。平素から体験しているようで、手ノコ持参で参加してくれ、結構大きな木もうまく切り倒しており、約2時間で集いの広場グランドゴルフ会場の入り口近辺がすっかり明るくなり見違えるようになりました。

森林インストラクターの二人から色々な指導を受けて、子供たちも良い経験になったようで、結構楽しかったと話しており、しっかり汗をかき、有意義な一日になったようです。

▲森の手入れ間伐・除伐に参加した緑の少年団

記録者:廣瀬 健(広島県緑化センター)

サクラの森の手入れ

●参加人数：15人

<プログラム状況>

天候に恵まれ、白木愛山会の人を中心に一般の参加もあり、「さくらの森」の間伐を行って頂いた。平素から山仕事はされているようで、かなりの大きさの木も手鋸で次々と倒されました。周りがとても明るくなり、桜の木も元気になったようで、「来春の花見が楽しみだ」とおっしゃっていた。

しっかり汗をかいて、皆さん「久しぶりに頑張った」と言いたそうで、満足そうでした。参加者全員で記念写真を撮って作業を終えました。大変有意義な一日でした。

▲桜の森の手入れへの参加者たち

記録者:田村 正嗣

「山の日」グランドゴルフ大会

●参加人数：35人

<プログラム状況>

「山の日」グランドゴルフ大会は、植樹終了後、「集いの広場」に全員集まって、児玉会長と緑化センターから「山の日」運営担当の廣瀬さんの始球式で開始されました。平素練習や試合を行っている会場なので、皆さん伸び伸びとプレーされており、良い結果が出るのではと思いながら約2時間で3ゲームを行いました。試合終了後、レストハウス前に移動して表彰式が行われました。「山の日」緑化センター会場の正本実行委員長から賞品が手渡されました。

優勝者は男性・女性とも梶田さん(夫婦)でした。優勝、準優勝、3位賞、ホールインワン賞と飛び賞があり、又全員に参加賞があったため皆さん満足そうでした。

記録者:清水池 国雄

丸太切りでペンダント作り

●参加人数：52人

<プログラム状況>

心配していた天候も良くなり、開会式の後、受付を開始。子供さんが主体で、大人の人も参加されており、ヒノキやリョウブの木を用意して1cm以下の厚みの輪切りにしたものへ、絵を画いてペンダントにしたりコースターにしたりして持ち帰っていただきました。

皆さん絵が上手で中々の出来栄えでした。中には「ヒノキを風呂に入れたいのでどの位の長さに切ったら良いか」などと聞く人も有り、結構賑わいました。

▲ノコを使い丸太を切る

▲切った丸太で、ペンダントをつくる

記録者:廣瀬 健(広島県グリーンサポート連絡会)

森のネイチャーゲーム

●参加人数：40人

<プログラム状況>

食堂前にて受付、ノルディックウオークと一緒のテント、そのせいで朝早くから人が途切れることがありませんでした。山の日にちなんで、広島県森林協会からの冊子(森林とわたしたち①から④)にちなんだネイチャーゲームを紹介・実施しました。フィールドは食堂裏の広場。葉っぱを使って「同じものを見つけよう」樹木に親しんでもらおうと樹皮の拓本とり。生き物に親しんでもらおうと「この生きものなあんだ」午前中は熱心な親子連れが参加。天気も暑くもなく寒くもなくよかったです。

お昼をはさんで、笛の演奏やオペラ歌手(男女)による音楽会があったので雰囲気はがらりと変わり賑やかになったのでその場でできるパネル遊びや動物絵合わせやしゅろの葉を使ったクラフト工作を実施しました。来年は山の手入れに来る人に、森に親しんでもらうためにもちょっとでもネイチャーゲームを体験してもらえればと思いました。

▲ネイチャーゲームを楽しむ子供たち

記録者:住吉 和子(広島県ネイチャーゲーム協会)

全体

●参加人数：4,800人（公園全体の入場者）

<プログラム状況>

6月5日、薄曇の山作業にはもってこいの天候で、また、サイクリングロードではJBCFロードシリーズ西日本クラシックが開催され、運動広場では県高校総体ラグビー大会、三景園では若葉茶会に夜はホタルの鑑賞会と盛りだくさんなイベントがあり、4,800人もの入園者が訪れる中、公園入口にある中央森林公園センター前の芝広場で記念すべき、第10回ひろしま「山の日」県民の集いinみはらを開催しました。

メインの「里山の手入れ」以外にも木の文化体験コーナーとして、森のネイチャーゲーム、木工教室、竹細工体験、チェーンソーアート実演や丸太きり等と地元産品の展示即売会やポニーと遊ぼう、森のコンサートなど様々な催しを行いました。今回は特に、日本航空の現役機長による出前講座「そらいく」をJALの協力により開催し、操縦室から見た地球環境のお話を小学生でも理解できるよう易しく解説していただき、聴講者された方には大変好評でした。

開会式は「山の日」本部副実行委員長でもある、福島偉人三原市会場実行委員長による挨拶ではじまり、五藤三原市長さんの祝辞を川口三原市経済部長が代読されました。来賓紹介では、出席いただいた広島県自然環境課長奥迫輝昭さん他3名を紹介するとともに、特別ゲストとして「2011年ミスやっさ」のお二人と東京から着いたばかりのJALの機長松並孝次さんも紹介しました。山の日宣言は船木小緑の少年団と羽和泉小緑の少年団の皆さんが元気よく宣誓されました。

開会式の後、里山手入れを約200人で行い、特別参加で東広島市社会福祉協議会96人の家族連れの参加もありました。参加者は5班に別れて森林ボランティアの指導により安全第一にヘルメットを着用し、下草を刈ったり、切倒された松の枝を鋸で切って運びやすくした後、ウッドチッパーまで運び粉砕し堆肥としました。

最後にJALの機長さんと、聴講生の小学生たちが「翼休めの森」で記念植樹をされました。森や山など、自然環境を保護することの大切さを理解し、行動することのきっかけづくりが出来た一日でした。

▲福島実行委員長開会挨拶

▲五藤市長祝辞　川口経済部長代読

▲2011年「ミスやっさ」挨拶

▲緑の少年団　山の日宣言

▲安全祈願　「ドングリコロコロ」

▲開会式の参加者

▲開会式の参加者

▲松の伐採作業

▲松の伐採

▲切った木は、運びチッパーで粉砕

▲木工教室

▲チェーンソーアート

▲ポニーと遊ぼう

▲産直売場のハーブティー

▲竹細工体験コーナー

▲木工クラフト作品

▲森のネイチャーゲーム

▲木工クラフト体験コーナー

▲オカリナ演奏

▲草笛演奏

▲ひょっとこ踊り

▲パントマイム

▲JAL出前講座「そらいく」多くの参加者が機長の説明を熱心に聴いていました

記録者:谷村 恭佐(三原市会場実行委員会 事務局長)

庄原市会場 板橋さとやま学びの森

全体

●参加人数：230人

<プログラム状況>

午前中は、動力を使った里山の本格的手入れ、炭出し作業を行いました。午後からは、午前中行われた地元の区民運動会に参加された多くの住民が加わって、森のコンサートなどを楽しまれました。今年も市外からの参加は少なかったので、情報発信の方法を考えるべきと反省しています。しかし、来られた方の満足度は非常に高く、山の持つ不思議なパワーに魅了されたのではと思います。

▲チェーンソーを使って、枯れマツの伐倒を行う

▲目立ての訓練

▲丸太切りに挑む初心者

森のコンサート

●参加人数：多数

<プログラム状況>

今年のコンサートは、昨年に引き続き、板橋小学校の板橋一心太鼓をお願いしました。総勢20人で叩く太鼓の演奏はとても素晴らしく、皆さん「うまいのう」とうなずきながら聞き入っておられました。そして今年は、津軽三味線の演奏者をお呼びしたのですが、素晴らしい演奏と歌で、大いに楽しんでいただきました。地元の尺八同好会のみなさんの演奏や、カラオケ発表会も好評でした。

▲板橋小学校による板橋一心太鼓

▲演奏を楽しむ参加者たち

自然観察会

<プログラム状況>

昨年に引き続き西村清己さんを講師に迎えて実施したのですが、子供よりも大人の方に好評でした。前日に、薬草グループの講習会を同地で実施されていたので、本番は予定通りのコースを補助者の自然観察員と共に歩きながら草花や樹木の説明を万葉集を絡めて行なわれました。

▲里山にはたくさんの命が息づいている

クラフト教室

<プログラム状況>

今年は、備北丘陵公園でクラフト工作の講師を務めておられる「のん気工房」の清水さんにおいでいただきました。残念ながら参加者は少なかったのですが、これも大人が喜んで木の皮を剥いたりしてベンチを作っておられました。

記録者:林 高正(板橋さとやま友の会)

福山市会場 ふくやまふれ愛ランド

全体

●参加人数：100人

<プログラム状況>

第10回ひろしま「山の日」県民の集いを6月5日(日)に、ふくやまふれ愛ランド(福山市赤坂町)にて開催しました。

福山市会場での開催も5回目を迎えたこともあり、来場者も定着し山に対する意識も次第に盛り上がって来ています。「山に親しむ、山を楽しみ、山に学ぶ」をテーマとして地元を中心に幅広く呼びかけをしたこともあり、当日の参加者は100人余りになりました。山や森の大切さを理解し、行動する県民の輪を広げる目的は達成できたものと確信しています。

開会式では、福山市会場関係者を代表して中根寿治さんより声高らかに開会宣言をしていただきました。次に、内海康仁福山市会場実行委員長による開会挨拶に続き、功労者表彰に移りました。今回の表彰は、「蔵王の森を守る会」様で、永年の功績に対し(社)広島県みどり推進機構の池田博行事務局長より感謝状が授与させました。続いて、地元の若者を代表して瀬尾真一さんが、力強く「山の日」宣言を行いました。

セレモニーの最後に全員でラジオ体操を行い、今回のメイン行事である「山のグラウンドワーク」への参加に備えました。

「山のグラウンドワーク」への参加者は90人余りとなり、広島県東部森林組合、福山山岳会メンバーの指導により植栽(アカマツ)、里山の草刈や樹木の手入れ作業等を実施しました。参加者は程よい汗をかき充実の日になったように思います。

最後に、当日はすばらしい天気に恵まれ盛会で終えることができたことは、参加者及び運営へご協力いただいた数多くの多く関係者の力によるものであり大変感謝いたします。

▲開会の挨拶をする内海実行委員長

▲瀬尾真一さんによる、ひろしま「山の日」宣言

▲開会式の様子

山のグラウンドワーク（里山の手入れ）

●参加人数：90人

＜プログラム状況＞

開会式終了後、ラジオ体操で体を動かし、グループごとに別れ、広島県東部森林組合の指導者から作業内容・注意点等の説明を受け、会場近の山林内にある遊歩道沿いまで移動し手入れを行いました。

今年の参加人数は、昨年と比べると減りましたが、参加された方々は毎年の事ながら、熱心に里山の手入れをされました。昨年植栽したエドヒガン桜も立派に成長していることに、みなさん驚いた表情を見せていました。今年はスーパー松の苗木を植栽しましたが、指導者から受けた指示どうりにしっかりと土の踏み込みをしました。曇り空で日差しが強くなかったため、手入れ終了後の汗をすぐ乾き、とても作業がしやすい天候でした。

▲参加者への作業内容の説明

▲スーパー松を植える

記録者:佐藤 元則（広島県東部森林組合）

山のグラウンドワーク（里山の手入れ）へ協力

当日は、先ず先ずの天候に恵まれ福山山岳会のメンバーは充実した1日を過ごすことができました。今年も前年同様に、メイン行事である「山のグラウンドワーク」へ広島県東部森林組合の補助（指導）として協力しました。

メンバー全員が、一般参加者への植栽、伐採他への指導を積極的に行ったこともあり盛会に終えることができました。また、程よい汗も流しました。

終了後は参加者全員で食事をしながら懇親会（反省会）を開き情報交換などを行いました。

▲下草刈りをする参加者

▲弱った樹木を間伐をする

記録者:小林 征三（福井山岳会）

三次市会場 清高の丘

全体

●参加人数：350人

＜プログラム状況＞

ひろしま「山の日」県民の集い三次市会場は、今年も西酒屋町の「清高（せいたか）の丘」を会場に開催しました。

午前中は、これまで継続して手入れを行ってきた清高の丘の手入れです。子どもたちを含む約50人の参加者が、指導員のサポートを受けながら、竹林の伐採や伐採した竹の枝打ちを中心に作業を行いました。なかなか根気のいる作業でしたが、参加者の皆さんが楽しみながら生き生きと作業されていた姿が印象的でした。手入れ作業の後は、さわやかな汗を流した爽快感のなか、地元JA女性部の皆さんに準備いただいた特製カレーライスをいただきました。食後のデザートは、「森のおもちゃの会」による米粉パンケーキです。実に美味でした！

午後からは、「森で遊ぼう」と題し、ツリーハウスのある広場を中心に「山の日」限定の木登り体験コーナーや、午前中に伐採した竹を利用した竹細工コーナー、自然や生き物の不思議さ、おもしろさを五感で体感できるネイチャーゲーム、恒例となった大人気のカブトムシの幼虫探しなど、森遊びを親子で楽しんでいただきました。

地域の皆さんによる森の手入れが進み、清高の丘も回を重ねるごとに、やわらかい日差しの入る居心地のいい場所となってきました。

今年の「山の日」も、ゆっくりと流れる時間の中で、大人も子どもも自然とふれ合うことができ、心を満腹にする1日を過ごすことができました。

記録者:三竿 好雄（三次市農政課）

▲会場の清高の丘

▲竹を伐採する子どもたち

▲カブトムシの幼虫を見つける

▲「山の日」限定、ターザンロープ

▲ネイチャーゲーム―森の探索

呉市会場 グリーンヒル郷原

全体　●参加人数：202人

<プログラム状況>

呉市会場は前年同様に前日から会場準備を進め、ボランティアの方々の御協力もあり、万全の態勢で当日を迎えることができました。当日6月5日(日)は心配されていた天気にも恵まれ、気持ち良く自然と触れ合うことができました。

参加者は一般参加の方からパブコック日立㈱呉事業所内BHKエコークラブ、サポート・トレッキング・グループの方々など地元が中心となり、プログラムを実行しました。

前年のプログラムではメインであった植樹に人数と時間をかけて行いましたが、今年は植樹に加えて玉伐り、ネイチャーゲームなど、より自然と触れ合うことのできるプログラムを予定し、実行することができました。

植樹では前年に植樹をした広場にて、サクラを植樹し、近隣周辺の草刈、芝生の植え付けなど将来外観の楽しみな公園作りを行いました。

玉伐りでは親子で協力して丸太を鋸で伐り、ネイチャーゲームでは目隠しをして視覚を失った状態で自然と触れ合うことで普段とは違った体験ができました。

10時から12時までの2時間で全てのプログラムを実行する予定でしたが、事前の打ち合わせや、準備、そして参加者全員が一丸となって目的を果たそうと尽力しましたので、予定通りに全てのプログラムを完遂できました。

▲開会式　堀川実行委員長の挨拶

▲参加者たち

植樹・公園づくり　檜の輪切り　ネイチャーゲームを行いました。

1.開会宣言　事務局
　玉理正博(中国木材株式会社　副部長)
2.実行委員長挨拶
　堀川保幸(中国木材株式会社　代表取締役社長)
3.メッセージ紹介
　宮 政利(県会議委員)
4.『山の日』宣言
　副実行委員長　佐藤一教氏(パブコック日立　部長
　パブコック日立エコークラブグリーン委員会　会長)
5.安全祈願
　運営委員長　宮岡泰久(サポート・トレッキング・グループ 会長)

サポート・トレッキング・グループの会員は、開会式に参列しないで8時30分から公園づくりの草取り作業を開始(昨年の植樹は2ヵ所あり、草取りの時間不足が予想された為)

参加者が内容毎に
1.植樹・公園づくりの参加者はバス・車にて移動
2.ネイチャーゲーム輪切り
3.檜の丸太輪切り　参加者は森へ3班に分かれ移動

1)植樹・公園づくり
　ところ　郷原～野呂山のふるさと林道沿いの造成地
　●参加者106人
　イ　植樹　サトザクラ　5本
　事前に業者が重機で穴掘り(石が多くて手掘りが無理)を済ませ苗木もすえていた苗木に、砂・肥料・水をスコップで混ぜながら投入した。
　ロ　芝　約1,300枚を並べ植えた、切れ目に砂を入れて仕上げた。みんなが植えたばかりの芝生に立って、両手に肥料を掘り、手を広げて全員が一斉に肥料を落として蒔いた。
　ハ　ベンチにも利用できる大きな石をあらかじめ重機で据付完了
　ニ　昨年度植樹(2ヵ所)したところにたくさんの草が茂り、地元・郷原の方、サポート・トレッキング・グループの会員が草抜きに専念した。

▲植樹・公園づくりの様子

記録者:実行委員会 事務局

▲植樹・公園づくりの様子

2)ネイチャーゲーム
　●参加者47人　協会から講師男性1人　女性2人
　目隠しイモ虫ゲームは、みんなが縦一列に並んで目隠、リーダーの誘導で森の中を散策して自然に触れるゲーム。
　目かくしトレイルゲームは、目かくしをして1本のロープをたよりに森の中を歩き回り、目以外の感覚をいっぱい働かせて、じっくり自然を感じるゲーム。
　フィールドビンゴゲームは、木の実、抜け殻、葉っぱの種類、鳥の声、けむしなど講師の独自製作のカードを使用。

3)檜の丸太輪切り　　当会場初めてのプログラム
　●参加者49人
　丸太を乗せる台　12個に6本の檜を乗せ中央にサポートG会員・統括者がまたがって丸太切りを指導　檜の良い香りを確り嗅いでもらった
　*郷原小の小3の学童は、丸太の輪切りにはまって、興味身心来年もぜひ参加したいと母に語る。

ネイチャーゲーム協会の新庄さんが制作した素晴らしくよく出来ていたチラシで、パブコック日立エコークラブの皆さんに「檜の丸太切り」・「ネイチャーゲーム」の参加者を多くお願いし、「植樹・公園づくり」を少なくして参加者のバランスをとってもらったことが良かった。

また、ゲームと丸太切りを組み合わせどちらにも参加させ、待ち時間をなくして効果をあげた。

子供たちを楽しませる事を第一に、出来るだけていねいに、しっかりほめることをモットーに指導した。ゲームは子供や若い大人に大変受けた様子、来年もこれらのゲーム取り入れたいものです。

記録者:宮岡 泰久(呉市会場運営委員長　サポート・トレッキング・グループ会長)

「山の日」イベント開催会場のひとつ、グリーンヒル郷原(呉市)での開催状況を以下記します。

当日は絶好の「山の日」日和とまではゆかなかったが幸い懸念していた雨になることもなく、地元や東広島市からの一般参加者に企業参加者(中国木材20人名、パブコック日立エコークラブ家族81人)が加わって、呉市会場としてはまずまずの200人余りが集まりました。

数の規模こそ他会場には及ばなかったものの盛り上がりは決して引けをとっておらず"山のグラウンドワーク"、"ネイチャーゲームと丸太切り"の二つのテーマ共、時間が足りぬほどの盛況ぶりでそれぞれ家族揃って楽しく過せた「山の日」ならではの野外イベントとなりました。

特に"ネイチャーゲームと丸太切り"では趣向を変えた二つの遊びをセットにして実施したのが効を奏して2班に分けた参加者の方々が二つをそれぞれ交互に楽しみ、野外ゲームの面白さを満喫していた。丸太切りのコーナーでは初めてノコギリを手にして悪戦苦闘しながら丸太に向うお父さん、それを子供とお母さんが傍で応援する何とも微笑ましい光景があちこちで見られました。

努力の甲斐あってみごと手に入れたヒノキの輪切り片を宝物の如く持ち帰る親子、一度では物足りないのか二度三度と丸太に挑む親子など、それぞれ参加された方々が普段手にすることのないノコギリの醍醐味を存分に味わっていました。

閉会後ホッとくつろぐ中国木材若手とサポート・トレッキング・グループの面々の顔は、裏方での大役を果たした満足感に満ちていました。

▲子どもたちに人気のあった丸太切り

記録者:金澤 宏(広島県森林インストラクター連絡協議会)

森のネイチャーゲーム

●参加人数：47人

＜プログラム状況＞

空を見上げると、今にも落っこちそうな雨雲。それでも、47人の参加がありました。スタッフは、和瀬さん、渡邊さんと横田の三人だったので、てんてこ舞い。記録写真を撮る暇もありませんでした。

「山の日」のアクティビティは、『目かくしイモ虫』『目かくしトレイル』『フィールドビンゴ』でした。『目かくしイモ虫』は、文字通り目かくしをするのですが、幼児や小さな子連れの親子の参加が多かったため、先ずは、貨物列車、次に目をつぶって少しイモ虫歩き。安心を確認して、じゃあ、いよいよ本番!できるかな?という具合に進めていきました。

『目かくしトレイル』では、「怖かった! 長く感じた等」とコースを振り返りながら、いつもと違う感覚を味わってもらえました。

『フィールドビンゴ』は、しっかりと視覚も使い、今がスターの毛虫や生きもののすみか探しまで、家族で和気あいあいと、ゆったり自然を満喫できたようです。

最後に、ビンゴの鉛筆と交換に、渡邊さん特製のぶんぶんごまをプレゼント。郷原の森に、参加者の皆さんの笑顔や笑い声がいつまでも響き、終了を促す放送に慌てるほど、楽しいネイチャーゲームデー（山の日）になりました。スタッフとして、忙しくも充実した楽しい「山の日」でした。

募集をしてくださった新庄さん。和瀬さん、渡邊さん、ありがとうございました。

▲森のネイチャーゲーム『目かくしイモ虫』

▲こちらは、『目かくしトレイル』

記録者:横田 登美子（どんぐり）

北広島町会場 芸北地区（八幡、川小田）

里山の手入れ（6/19実施）

●参加人数：26人

＜プログラム状況＞

芸北地区の八幡高原の恭山荘周辺において、八幡の有志26人により里山の手入れを実施しました。

参加者がそれぞれ手鎌・手ノコ・刈払い機・チェーンソーを持参して下草・雑木の手入れを行い、大変気持ちのよい里山となりました。

▲刈払い機を使い里山の下草を刈る

▲地元地区を中心に、集まった参加者たち

記録者:八幡の有志

北広島林業体験交流事業（8/5実施）

●参加人数：82人

＜プログラム状況＞

夏休み期間中の8月5日、芸北地域の川小田地区において町内小学生を対象とした北広島町林業体験交流事業を実施しました。

午前中はみどりの広場において、森林インストラクターによる「森と緑の勉強会」ののち、10班に分かれ実際に山に入り、ノコギリでヒノキの間伐体験を行いました。

午後は北広島町役場芸北支所において間伐材の木工教室行い、ヒノキの香りの中、楽しみながらマガジンラックを作りました。

▲森林インストラクターによる「森と緑の勉強会」

▲「間伐体験」

▲間伐材の「木工教室」

▲参加者のみさなん

記録者:北広島林業体験交流事業実行委員会

実行委員会（全体）

■アドバイザー

森本　竹一	元・吉和村村長
中越　信和	広島大学大学院 国際協力研究科 教授
植田　俊彦	広島県農林水産局 森林保全課 課長
奥迫　輝昭	広島県環境県民局 自然環境課 課長
池田　博行	(社)広島県みどり推進機構 事務局長
川本　一之	中国新聞社 代表取締役社長
安東　善博	(株)中国放送 代表取締役社長

■実行委員長

伊藤　利彦	愛する熱帯多雨林のために再生紙で名刺を作る会 幹事

■副委員長

内海　康仁	光和物産(株) 代表取締役社長
京才　昭	広島県山岳連盟 会長
瀬川　千代子	ひろしま緑づくりインフォメーションセンター 代表
杉村　功	社団法人日本山岳会広島支部 支部長
林　春樹	(株)タカキベーカリー 代表取締役 社長執行役員
福島　偉人	(株)有斐園 代表取締役
堀川　保幸	中国木材(株) 代表取締役社長
前垣　壽男	西条・山と水の環境機構 理事
箕田　英紀	三次市酒屋地区自治連合会 会長、エコパークの森づくり副実行委員長
八谷　文策	NPO法人　森のバイオマス研究会　監事

■委　　員

赤木　茂	光和物産(株) 取締役総務部長
秋山　浩三	広島県ネイチャーゲーム協会 事務局長
斎　陽	(社)日本山岳会広島支部 自然環境委員会副委員長
井上　年光	阿品の森サポータークラブ
上本　真稔	生協ひろしま
大西　弘	広島県森林インストラクター連絡協議会 会長
小笠原　六紘	板橋さとやま友の会
岡本　一彦	三次市産業部 農政課 課長
鎌田　博	広島市森林公園((株)第一ビルサービス 森林公園 園長)
櫻井　充弘	(財)もみのき森林公園協会 理事長、ひろしま人と樹の会 事務局長
佐渡　宏治	北広島町 産業課 課長
仙田　信吾	(株)中国放送　取締役テレビ事業系担当
竹田　幸雄	(公財)オイスカ広島県支部 事務局長
玉理　正博	中国木材(株) 人事・総務部 副部長
入田　謙一郎	(株)中国新聞企画サービス
野島　信隆	広島県山岳連盟 副会長 普及部 部長
野本　利夫	NOP法人ゆあーず「食」未来研究所 理事長
福永　やす子	広島県山岳連盟 普及部
船本　昌義	西条・山と水の環境機構
正本　良忠	広島県緑化センター　管理責任者
宮岡　泰久	サポート・トレッキング・グループ 会長
山田　雅昭	広島県山岳連盟 理事長

■監　　事

梅田　斉	(財)もみのき森林公園協会 事務局長

■事務局(委員兼任)

総合調整　兼森　志郎　(社)日本山岳会広島支部
総合調整　畝崎　辰登　西条・山と水の環境機構

実行委員会（会場）

東広島市会場［憩いの森公園］

■実行委員長

前垣　壽男	西条・山と水の環境機構 理事

■副委員長

石井　英太郎	西条・山と水の環境機構 運営委員

■運営委員長

島　靖英	西条・山と水の環境機構 運営委員

■運営副委員長

松浦　尚樹	賀茂地方森林組合

■事務局長

畝崎　辰登	西条・山と水の環境機構 事務局

廿日市市会場［もみのき森林公園］

■実行委員長

櫻井　充弘	(財)もみのき森林公園協会 理事長

■副委員長

大久保　正人	阿品の森サポータークラブ 会長

■運営委員長

大西　弘	広島県森林インストラクター連絡協議会 会長

■事務局長

梅田　斉	(財)もみのき森林公園協会 事務局長

広島市会場［広島市森林公園］

■実行委員長

鎌田　博	広島市森林公園((株)第一ビルサービス 森林公園 園長)

■副委員長

富士澤　隆	

■運営委員長

見勢井　誠	もりメイト倶楽部Hiroshima 会長

■運営副委員長

桑原　清二	フォレストクラブ森守 会長

■事務局長

桑田　荘一郎	広島市森林公園

広島市会場［広島県緑化センター］

■実行委員長

正本　良忠	広島県緑化センター　管理責任者

■副委員長

山根　道廣	

■運営委員長

廣瀬　健	広島県グリーンサポート連絡会 会長

■運営副委員長

前山　敏彦	ふれあい湧
久保田　純男	愛する熱帯多雨林のために再生紙で名刺を作る会

三原市会場［中央森林公園］

■実行委員長

福島　偉人	(株)有斐園 代表取締役

■副委員長

渡邊　文雄	三原市経済部 部長
小川　健太郎	尾三地方森林組合 代表理事組合長

■運営委員長

片山　忠行	NPO法人森のおさるさん

■事務局長

谷村　恭佐	(財)中央森林公園協会　事務局長

庄原市会場［板橋さとやま学びの森］

■実行委員長

八谷　文策	NPO法人森のバイオマス研究会 監事

■運営委員長

小笠原　六紘	板橋さとやま友の会

■事務局長

林　高正	板橋さとやま友の会

福山市会場［ふくやまふれ愛ランド］

■実行委員長

内海　康仁	光和物産(株) 代表取締役社長

■事務局長

赤木　茂	光和物産(株) 取締役総務部長

三次市会場［清高の丘］

■実行委員長

箕田　英紀	三次市酒屋地区自治連合会 会長

■運営委員長

貞広　和則	三次地方森林組合

■事務局長

岡本一彦	三次市農政課 課長

呉市会場［グリーンヒル郷原］

■実行委員長

堀川　保幸	中国木材(株) 代表取締役社長

■副委員長

佐藤　一教	バブコック日立・エコークラブグリーン委員会 理事

■運営委員長

宮岡　泰久	サポート・トレッキング・グループ 会長

■運営副委員長

金澤　宏	広島県森林インストラクター連絡協議会

■事務局長

玉理　正博	中国木材(株) 人事・総務部 副部長

北広島町会場［芸北地区］

■実行委員長

林　春樹	(株)タカキベーカリー 代表取締役 社長執行役員

■事務局長

佐渡　宏治	北広島町 産業課 課長

※以上、2011年6月5日時点での委員及び所属等を記載しております。

協力者・団体等

■記念行事会場（中国新聞ホール）
●受付／日本山岳会広島支部、ちびっ子クラブ
●会場・展示・舞台／ひろしま人と樹の会、日本山岳会広島支部
●司会／山原玲子（アナウンサー）

■東広島市会場（憩いの森公園）
●山のグラウンドワーク／西条・山と水の環境機構、（財）東光会、賀茂地方森林組合、フジ・エコテック
●清掃登山／広島県山岳連盟、日本山岳会広島支部
●森のネイチャーゲーム／広島県ネイチャーゲーム協会（呉・東広島の会）
●森の野鳥観察会／東広島の野鳥と自然に親しむ会
●ペレットストーブの実演展示／ヤマノイ㈱、新興工機㈱、栗尾衛生社
●山の道具やさん／賀茂地方森林組合
●ハーブティー／憩いの森ハーブ研究会
●司会／山原玲子（アナウンサー）

■廿日市市会場（もみのき森林公園）
●「もみのき湿原」の手入れをしよう／阿品の森サポータークラブ、広島県森林インストラクター連絡協議会
●親子でピザを楽しむ会／広島県森林インストラクター連絡協議会
●森のクラフト教室／広島県森林インストラクター連絡協議会
●自然観察指導員と歩くもみのき森林公園／もみのき森林公園協会
●森のネイチャーゲーム／広島県ネイチャーゲーム協会
●森の恵み―魚のつかみ取り／もみのき森林公園協会
●ポニーに乗ってみよう／MRC乗馬クラブ

■広島市会場（広島市森林公園）
●グリーンアドベンチャー／広島市森林公園
●森のネイチャーゲーム／広島県ネイチャーゲーム協会
●スタンプラリー／広島市森林公園
●山の手入れ／もりメイト倶楽部Hiroshima

■広島市会場（広島県緑化センター）
●桜の植樹とグランドゴルフ大会／福田老年会、福田福寿会
●間伐・除伐・森の手入れ／可部南グリーンズ緑の少年団
●国際森林年クイズラリー／広島県緑化センター
●企業の森　森林整備／山根木材㈱
●紙ヒコーキ大会／ふれあい湧
●丸太切でペンダントづくり／広島県グリーンサポート連絡会
●森のネイチャーゲーム／広島県ネイチャーゲーム協会
●ノルディックウォーク／オール・オンスポーツ

■三原市会場（中央森林公園）
●里山の手入れ／ひろしま人と樹の会、NPO法人森のお猿さん、三景園友の会、帝人三原事業所、シャープ、ホンダカーズ広島、ユアーズ、尾三地方森林組合等
●JAL出前講座「そらいく」／日本航空
●木の文化体験／三原市シルバー人材センター、広島県森林インストラクター連絡協議会、広島県ネイチャーゲーム協会、瀬戸内フォレスト21、林研グループ等
●ポニーと遊ぼう／平田牧場

■庄原市会場（板橋さとやま学びの森）
●里山の手入れ／備北森林組合、東城森林組合、西城森林組合
●森のコンサート／板橋小学校児童
●ポニーに乗って遊ぼう／庄原ホースヒル
●森のクラフト教室／板橋さとやま友の会
●森で体験しよう／板橋さとやま友の会

■福山市会場（ふくやまふれ愛ランド）
●里山の手入れ／広島県東部森林組合、福山山岳会
●ボランティア団体の展示／実行委員会

■三次市会場（清高の丘）
●みんなで森の手入れ／実行委員会
●森で遊ぼう／実行委員会

■呉市会場（グリーンヒル郷原）
●植樹／実行委員会
●公園づくり／実行委員会
●林道の草刈り／実行委員会
●玉伐り／実行委員会
●森のネイチャーゲーム／広島県ネイチャーゲーム協会

■北広島町会場（芸北地区）
●里山の手入れ／八幡の有志
●北広島林業体験交流事業／北広島林業体験交流事業実行員会

事務局で確認している団体等を掲載いたしました。
今年もたくさんの方々に協力していただき行事を行なうことができました。1年ごと1年ごと、いろいろな人を結び、新たな力を生み出しています。

第10回ひろしま「山の日」県民の集いの記録

■発行日　平成23年9月30日
■発行・編集　ひろしま「山の日」県民の集い実行委員会
■事務局　〒730-0041　広島市中区小町2-28-703
TEL082-909-7662　FAX082-248-3586
E-mail : info@yamanohi.com